

3.2.4 植物、動物の状況

(1) 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生状況は、調査区域及びその周辺を対象に、文献その他の資料により整理しました。

文献その他の資料による調査範囲は、表 3.8 のとおりです。

表 3.8 文献その他の資料による調査範囲（植物）

文献その他の資料	調査範囲
「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課 令和4年3月）	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「横浜の植物 2020—横浜の植物(2003)補遺—」（横浜植物会 令和2年10月）	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「大和市史 8（上）別編自然」（大和市 平成8年9月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「横浜の川と海の生物（第16報・河川編）修正版」（横浜市環境科学研究所 令和6年3月）	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「大和市の植物」（大和市教育委員会 平成3年3月）	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「東京都レッドデータブック 2023 本土部」（東京都 令和5年）	調査区域が該当するメッシュで確認された種を対象としました。
「東京都植物誌 2019」（合田勇太郎 令和元年）	東京都町田市で確認された種を対象としました。

① 植物相の概要

調査区域及びその周辺の植物相の概要を、表 3.9 のとおり整理しました。維管束植物（シダ植物及び種子植物）1,849 種が確認されています。

表 3.9 文献により確認された植物

分類		目数	科数	主な確認種	
シダ植物門	ヒカゲノカズラ綱	3 目	3 科	トウゲシバ（広義）、ホソバトウゲシバ、ヒロハノトウゲシバ、ヒカゲノカズラ、イヌカタヒバ、クラマゴケ、タチクラマゴケ、イワヒバ、コンテリクラマゴケ、ミズニラ（10 種）	
	大葉シダ綱	9 目	19 科	スギナ、オオハナワラビ、ゼンマイ、ウラジロ、カニクサ、サンショウモ、キジノオシダ、イヌシダ、ワラビ、ヒメミズワラビ、イノモトソウ、トラノオシダ、ハリガネワラビ、ヒメシダ、コモチシダ、イヌワラビ、リョウメンシダ、メヤブソテツ、ベニシダ、イノデ、ノキシノブ（広義）等（176種）	
種子植物門	裸子植物亜門		4 目	5 科	イチョウ、モミ、アカマツ、クロマツ、イヌマキ、ヒノキ、サワラ、スギ、コウヨウザン、カイヅカイブキ、イヌガヤ、キヤラボク、カヤ（13 種）
			6 目	8 科	サネカズラ、ヒトリシズカ、ドクダミ、ウマノスズクサ、ホオノキ、クスノキ等（25 種）
	単子葉類		9 目	24 科	ウラシマソウ、アオウキクサ、ヘラオモダカ、オオカナダモ、リュウノヒゲモ、オニドコロ、エビネ、ギンラン、ヒオウギ、ヒガンバナ、コバギボウシ、シュロ、ツユクサ（広義）、コナギ、ミョウガ、ヒメガマ、イグサ、カサスゲ、ビロードスゲ、ヒメクグ、タマガヤツリ、メリケンガヤツリ、ヌカボ、スズメノテッポウ、メリケンカルカヤ、メヒシバ、チガヤ、ススキ、ツルヨシ、モウソウチク等（452 種）
	被子植物亜門				
		真性双子葉類	31 目	113 科	フサザクラ、アケビ、メギ、ニリンソウ、アワブキ、カツラ、ユズリハ、ツルマンネングサ、ヤブカラシ、ネムノキ、ヤブマメ、ホドイモ、サイカチ、クズ、ハリエンジュ、シロツメクサ、ヒメハギ、アキグミ、ナツメ、ケヤキ、カナムグサ、ウワバミソウ、ヤマザクラ、スダジイ、クヌギ、シラカシ、コナラ、オニグルミ、ケヤマハンノキ、イヌシデ、アレチウリ、ツルウメモドキ、カタバミ、エノキグサ、トウダイグサ、イイギリ、シダレヤナギ、タチツボスミレ、オトギリソウ、ゲンノショウコ、ミソハギ、オオマツヨイグサ、ミツバウツギ、ヌルデ、イタヤカエデ（広義）、ムクロジ、ニガキ、センダン、カラスノゴマ、アオギリ、ゼニバアオイ、ナズナ、カナビキソウ、ヤドリギ、ミズヒキ、ギンギシ、コハコベ、イノコヅチ、アカザ、オシロイバナ、スベリヒユ、ヤマアジサイ、ホウセンカ、カキノキ、ヤブコウジ、コナスビ、ヤブツバキ、エゴノキ、ギンリョウソウ、ナツハゼ、アオキ、ヤエムグラ、フデリンドウ、ガガイモ、ヒルガオ、ホオズキ、ワルナスビ、ホタルカズラ、トウネズミモチ、シソクサ、ヘラオオバコ、オオイヌノフグリ、クサギ、アキノタムラソウ、ハエドクソウ、キリ、ナンバンギセル、ハグロソウ、モチノキ、ツリガネニンジン、ヨモギ、ヒメジョオン、アレチノギク、アキノキリンソウ、セイヨウタンポポ、カントウタンポポ、オオオナモミ、オニタビラコ（広義）、ヤマウコギ、セリモドキ、レンブクソウ、スイカズラ、オミナエシ等（1,173 種）
合計		62 目	172 科	1,849 種	

② 植生の概要

調査区域における現存植生図は図 3.12 に、潜在自然植生図は図 3.13 に示すとおりです。

「潜在自然植生」とは、現存植生に加えられている人間の影響を一切停止した場合に、理論的にその立地に成立すると判定される自然植生を図化したものです。

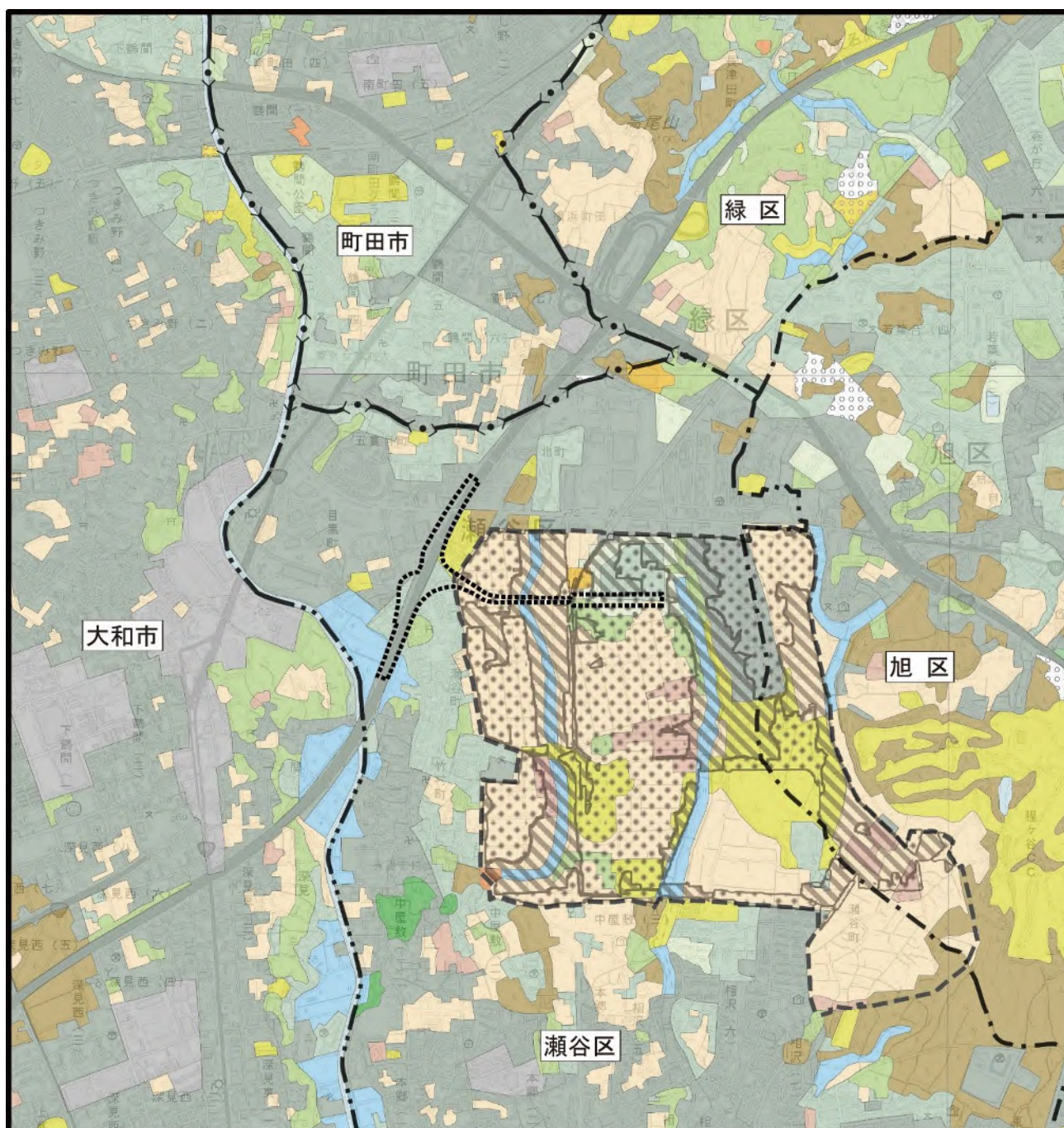
対象事業実施区域及びその周辺の現存植生は、主に畑雑草群落、市街地、緑の多い住宅地の他に、小規模な範囲でクヌギ・コナラ群集、低木群落、ゴルフ場・芝地、水田雑草群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落が分布しています。潜在自然植生としては、シラカシ群集・ケヤキ亜群集、シラカシ群集・典型亜群集及びハンノキ群落が成立するとされています。

また、対象事業実施区域内の現存植生は、畑地雑草群落、小規模なクヌギ・コナラ群集、路傍・空地雑草群落が分布しています。潜在自然植生としては、シラカシ群集・ケヤキ亜群集、シラカシ群集・典型亜群集及びハンノキ群落が成立するとされています。

なお、上瀬谷地区内は、土地区画整理事業により、すべてが改変され、盛土または切土の工事が実施される予定です（盛土及び切土の範囲は図 3.12 参照）。そのため、土地区画整理事業実施区域内の農業振興地域（図 3.26(p.3-78)参照）も改変されます。

しかし、土地区画整理事業実施区域は、農業振興地区、物流地区、観光・賑わい地区及び交通施設用地、防災・公園地区等に整備される計画（図 3.21(p.3-65)参照）であるため、新たに整備される防災・公園地区等では、当該地域の保全対象種の生育・生息地として、適した環境を創出・保全することが計画されています。^{注1}（図 3.22(p.3-66)参照）

注1：「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価事後調査計画書（工事中その2）」（横浜市 令和6年2月）



凡 例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界 市界 区界

- | | | |
|--------------|-----------|------------------|
| シラカシ群集 | 竹林 | 水田雑草群落 |
| シラカシ屋敷林 | ゴルフ場・芝地 | 市街地 |
| コナラ群落(VII) | 牧草地 | 緑の多い住宅地 |
| クヌギ・コナラ群集 | 路傍・空地雑草群落 | 残存・植栽樹群をもつ公園、墓地等 |
| 低木群落 | 果樹園 | 工場地帯 |
| チガヤ・ススキ群落 | 常緑果樹園 | 造成地 |
| スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 畑雑草群落 | 盛土 |
| | | 切土 |
| | | 開放水域 |



0 0.25 0.5 1 km

資料：「第6回～第7回自然環境保全基礎調査」（環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧）

図 3.12 現存植生図

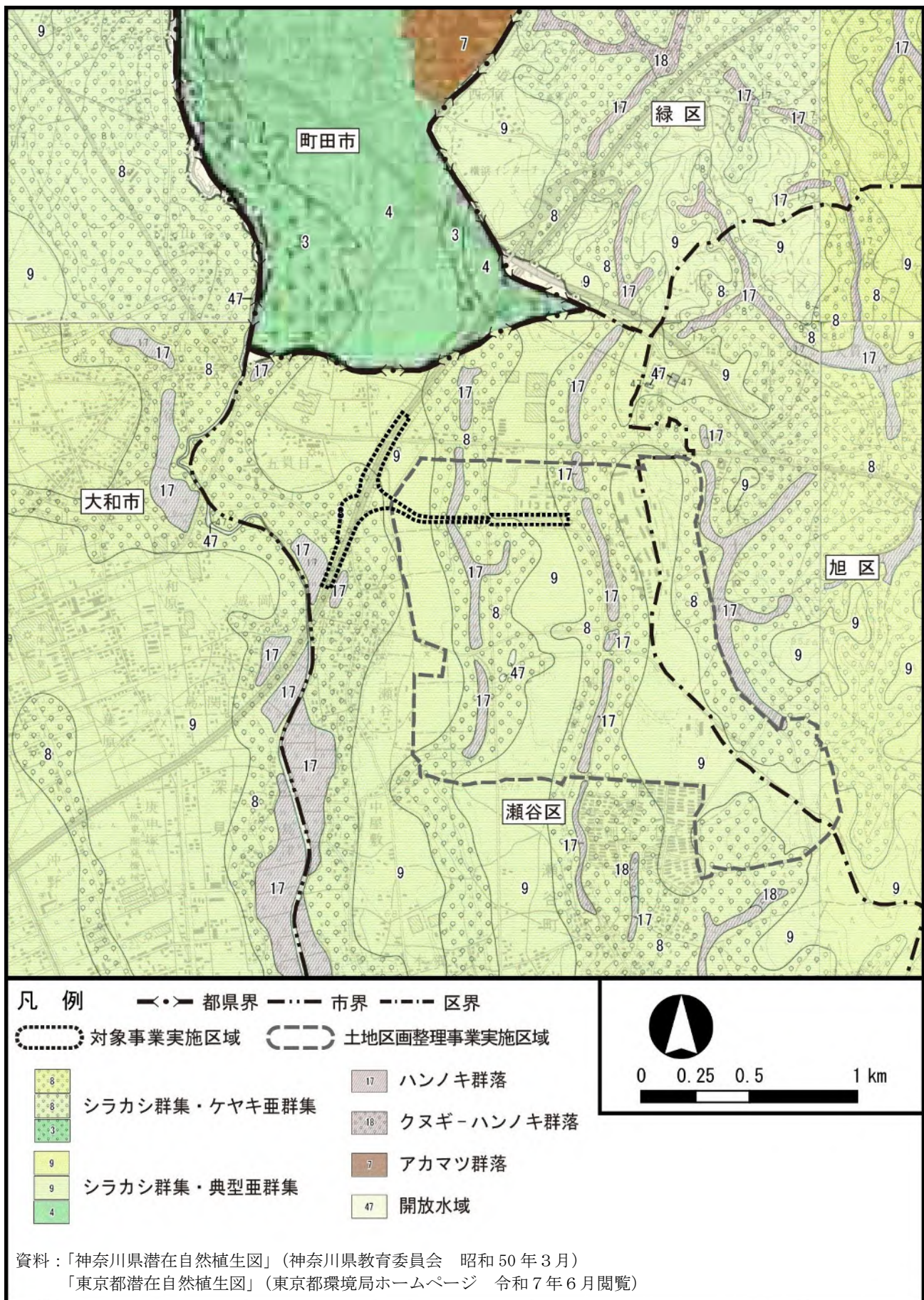


図 3.13 潜在自然植生図

③ 植物の重要な種及び重要な群落

植物の重要な種及び重要な群落の選定基準は、表 3.10 のとおりです。

表 3.10(1) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

	選定基準	文献その他の資料	重要な種	重要な群落
①	「文化財保護法」(昭和25年5月法律第214号)、「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年4月神奈川県条例第13号)、「横浜市文化財保護条例」(昭和62年12月横浜市条例53号)、「大和市文化財保護条例」(昭和38年10月大和市条例第25号)に基づく天然記念物	国特：特別天然記念物 天然：天然記念物 県天：神奈川県天然記念物 横浜天：横浜市天然記念物 大和天：大和市天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁ホームページ 令和7年6月閲覧)ほか各自治体ホームページ	○
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月法律第75号)に基づく国内希少野生動植物等	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年2月政令第17号)	○
③	「環境省第5次レッドリスト(植物・菌類)」(環境省 令和7年3月)の掲載種	EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種 CR+EN：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの CR：絶滅危惧IA類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧IB類・・・IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧II類・・・絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「第5次レッドリスト(植物・菌類)の公表について」(環境省自然環境局野生生物課ホームページ 令和7年6月閲覧)	○

表 3.10(2) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
④	「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課 令和4年3月)	<p>EX: 絶滅・・・すでに絶滅したと考えられる種</p> <p>EW: 野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種</p> <p>CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種</p> <p>CR: 絶滅危惧ⅠA類・・・ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種</p> <p>EN: 絶滅危惧ⅠB類・・・ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種</p> <p>VU: 絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種</p> <p>NT: 準絶滅危惧・・・現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種</p> <p>減少: 減少種・・・かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種</p> <p>希少: 希少種・・・生息地が狭域であるなど生息環境が脆弱な種のうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地での環境悪化によっては絶滅が危惧される種</p> <p>要注: 要注意種・・・前回、減少種または希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地または生息個体数が明らかに減少傾向にある種</p> <p>注目: 注目種・・・生息環境が特殊なもののうち、県内における衰退はめだたないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧される種</p> <p>DD: 情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種</p> <p>不明: 不明種・・・過去に不確実な記録だけが残されている種</p> <p>LP: 絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い個体群</p>	「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課 令和4年3月)	○	
⑤	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)に記載された植物群落(群落複合)	群落複合: モザイク状に成立していたり、成帯構造をもつなど、隣接した植物群落をまとめてとらえることが相応しいと考えられる群落	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)		○
⑥	「横浜のレッドデータ植物目録」(神奈川県立博物館研究報告 p97-118 平成16年3月)の掲載種	<p>Ex-A: 絶滅種(Ex)のうち、分布域・分布量が限られた種のうち、現在、絶滅したと考えられる種</p> <p>Ex-B: 絶滅種(Ex)のうち、横浜市半分以上の地域に分布していたが、現在は絶滅したと考えられる種</p> <p>En-A: 絶滅危惧種(En)のうち、分布域・分布量が限られた種のうち、今や絶滅寸前と考えられる種</p> <p>En-B: 絶滅危惧種(En)のうち、横浜市半分以上の地域に分布していたが、急激に減少し、現在は絶滅寸前と考えられる種</p> <p>V-A: 危急種(V)のうち、分布域・分布量が限られた種のうち、減少の著しい種</p> <p>V-B: 危急種(V)のうち、横浜市半分以上の地域に分布していたが、急激に減少している種</p> <p>R: 準絶滅危惧種</p>	「横浜のレッドデータ植物目録」(神奈川県立博物館研究報告 p97-118 平成16年3月)	○	

表 3.10(3) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
⑦	「第2回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁 昭和56年度)、「第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁 昭和63年度)、「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁 平成12年3月)に掲載された特定植物群落	A: 原生林もしくはそれに近い自然林 B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C: 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であつても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G: 乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H: その他、学術上重要な植物群落または個体群	「第2回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁 昭和56年度)、「第3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁 昭和63年度)、「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁 平成12年3月)		○
⑧	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan 平成8年4月)に掲載の植物群落	4: 緊急に対策必要 3: 対策必要 2: 破壊の危機 1: 要注意	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan 平成8年4月)		○
⑨	「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」(環境省 平成28年)の1/50,000植生図に示される自然度10及び9の群落	植生自然度10: 自然草原(高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区) 植生自然度9: 自然林(エゾマツトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区)	「1/2.5万植生図を基にした植生自然度について」(環境省 平成28年3月)		○

ア. 重要な種

植物の重要な種は、「① 植物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、選定基準に基づき学術上又は希少性の観点から選定しました。その結果、重要な種は表 3.11 のとおり 42 目 105 科 380 種が確認されています。

表 3.11(1) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ					En-A
2	イワヒバ	イワヒバ	イヌカタヒバ			VU		
3	ミズニラ	ミズニラ	ミズニラ			NT	VU	V-B
4	ハナヤスリ	ハナヤスリ	シチトウハナワラビ				NT	
5			アカハナワラビ					R
6			ナガホノナツノハナワラビ					En-B
7			ナツノハナワラビ					V-B
8			コヒロハハナヤスリ				NT	V-B
9			ハマハナヤスリ					V-B
10			ヒロハハナヤスリ					En-A
11	ゼンマイ	ゼンマイ	ヤシャゼンマイ					En-A
12	コケシノブ	コケシノブ	ウチワゴケ					En-A
13	サンショウモ	サンショウモ	オオアカウキクサ			EN	VU	En-B
14			サンショウモ			NT	CR	En-B
15	ヘゴ	キジノオシダ	オオキジノオ				NT	En-A
16			キジノオシダ				NT	En-A
17	ウラボシ	コバノイシカグマ	フモトカグマ					En-A
18		イノモトソウ	クジャクシダ					En-A
19			ヒメミズワラビ				NT	
20			マツサカシダ					En-A
21			アマクサシダ					R
22			オオバノハチジョウシダ					Ex-A
23		チャセンシダ	コバノヒノキシダ					V-B
24		ヒメシダ	イワハリガネワラビ				EN	
25		ヌリワラビ	ヌリワラビ					En-A
26		シシガシラ	シシガシラ					En-A
27		メシダ	シケチシダ					En-A
28			ホソバイヌワラビ					V-A
29			ヒロハイヌワラビ					V-B
30			ムクゲシケシダ				VU	En-A
31			ヘラシダ					V-B
32			ナチシケシダ					En-B
33			コヒロハシケシダ				EN	
34		オシダ	オニカナワラビ					En-B
35			ホソバカナワラビ					En-A
36			ナンゴクナライシダ					R
37			シノブカグマ				EN	R
38			ハカタシダ					En-A
39			コバノカナワラビ					En-A
40			メヤブソテツ					En-A
41			イワヘゴ					En-A
42			サイゴクベニシダ					En-A
43			オシダ					En-A
44			ナチクジャク				CR	Ex-A
45			オオクジャクシダ					Ex-A

表 3.11(2) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑥
46	ウラボシ	オシダ	マルバベニシダ					V-B
47			サクライカグマ					En-A
48			ギフベニシダ					V-A
49			キノクニベニシダ					R
50			ワカナシダ				EN	En-A
51			キヨスミヒメワラビ					R
52			エンシュウベニシダ					V-A
53			ミヤマクマワラビ					Ex-A
54			ミヤマイタチシダ					En-A
55			イワイタチシダ					En-A
56			イヌイワイタチシダ				NT	
57			ナガバノイタチシダ					En-A
58			タニヘゴ				EN	En-A
59			チャボイノデ					En-A
60			カタイノデ					Ex-A
61			オオキヨズミシダ					En-A
62			イワシロイノデ					En-A
63			ツヤナシイノデ					En-A
64			サイゴクイノデ					R
65			サカゲイノデ					En-A
66			イノデモドキ					V-B
67			ヒメカナワラビ					En-B
68		ウラボシ	マメヅタ					V-B
69			ヒメノキシノブ					En-A
70	マツ	マツ	モミ					V-A
71	スイレン	スイレン	コウホネ				CR	
72	コショウ	ドクダミ	ハンゲショウ					V-B
73		ウマノスズクサ	タマノカンアオイ			VU	VU	V-A
74	クスノキ	クスノキ	ニッケイ			NT		
75			ダンコウバイ					R
76	オモダカ	サトイモ	コウキクサ					V-A
77		オモダカ	トウゴクヘラオモダカ			EN	CR	En-B
78			マルバオモダカ			VU	EX	Ex-A
79			ウリカワ					En-B
80		トチカガミ	ヒロハトリゲモ			NT	NT	
81		ヒルムシロ	エビモ					V-B
82			ヒルムシロ					En-B
83			ヤナギモ					En-B
84			ササバモ				NT	En-A
85			リュウノヒゲモ			NT	VU	R
86	ヤマノイモ	ヤマノイモ	タチドコロ					En-A
87			キクバドコロ					V-B
88	ユリ	シュロソウ	シュロソウ				VU	V-A
89		ユリ	カタクリ				VU	En-A
90			コオニユリ					Ex-A
91			タイワンホトトギス			VU		
92			アマナ				NT	
93	クサスギカズラ	ラン	エビネ			NT	NT	V-B
94			キンラン			NT	NT	
95			シロバナキンラン			NT	NT	
96			サイハイラン					V-B
97			サガミラン			NT	NT	R
98			マヤラン			VU		R
99			クマガイソウ			VU	VU	En-B
100			タシロラン			NT		R

表 3.11(3) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑥
101	クサスギカズラ	ラン	オニノヤガラ					R
102			クロヤツシロラン					R
103			クモキリソウ					Ex-A
104			オオバノトンボソウ					V-B
105			トンボソウ					En-A
106		アヤメ	ヒオウギ				VU	
107			ノハナショウブ				EN	Ex-A
108			カキツバタ			NT	EX	
109			アヤメ				EX	
110		クサスギカズラ	キジカクシ				VU	En-A
111			コバギボウシ					En-B
112			ユキザサ				NT	Ex-A
113			ヤマアマドコロ				NT	
114	イネ	ガマ	ヒメミクリ			VU	CR	Ex-A
115		ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ				NT	
116			ホシクサ					En-B
117			コイヌノヒゲ				EN	
118			イヌノヒゲ				CR	Ex-A
119		イグサ	ヒロハノコウガイゼキショウ					V-B
120			タチコウガイゼキショウ					R
121			ハリコウガイゼキショウ					En-A
122			ヤマズメノヒエ					En-A
123		カヤツリグサ	ミノボロスゲ					En-A
124			エナシヒゴクサ					R
125			マツバスゲ				VU	En-B
126			ミヤマシラスゲ					V-B
127			ホソバヒカゲスゲ					En-A
128			テキリスゲ					En-A
129			クジュウツリスゲ			NT	CR	
130			ホシナシゴウソ					En-A
131			ヌカスゲ					V-A
132			カンスゲ					En-A
133			シバスゲ					V-B
134			オタルスゲ				VU	En-A
135			ヒメゴウソ					R
136			タカネマスカサ					En-A
137			イトアオスゲ					En-A
138			シラコスゲ					V-B
139			オオタマツリスゲ				CR	Ex-A
140			クサスゲ				VU	
141			コイトスゲ					R
142			センダイスゲ				VU	R
143			タガネソウ					V-B
144			アゼスゲ					V-B
145			ツルナシコアゼガヤツリ				VU	Ex-B
146			コアゼガヤツリ					V-B
147			ハリイ				VU	
148			クログワイ					V-B
149			シカクイ				NT	V-B
150			クグテンツキ				EN	
151			クロテンツキ					V-B
152			アゼテンツキ				VU	En-B

表 3.11(4) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑥
153	イネ	カヤツリグサ	メアゼテンツキ				VU	
154			タタラカンガレイ				CR	En-A
155			シズイ				EX	
156			コマツカサススキ				EN	En-A
157			マツカサススキ					V-B
158			コシンジュガヤ				EN	Ex-A
159		イネ	ハネガヤ				EN	Ex-A
160			ヤマヌカボ					V-B
161			セトガヤ					V-B
162			ヤマアワ					V-B
163			ヒメノガリヤス					En-A
164			ヒメアブラススキ					En-A
165			オガルカヤ					V-B
166			キタメヒシバ				NT	
167			カリマタガヤ					En-B
168			ミズタカモジグサ			VU		
169			スズメガヤ				VU	
170			ウシノケグサ				VU	
171			カモノハシ				EN	En-A
172			ミノボロ				CR	En-A
173			アゼガヤ					En-B
174			キダチノネズミガヤ				VU	En-A
175			ヨコハマダケ				EN	En-A
176			ヤマミゾイチゴツナギ					R
177			ヌメリグサ					En-B
178			イヌアワ					V-B
179			オオアブラススキ					En-B
180			メガルカヤ					En-B
181			マコモ					En-B
182	キンポウゲ	フサザクラ	フサザクラ					R
183		ケシ	ヤマエンゴサク				NT	En-A
184			ヤマブキソウ				VU	
185		ツヅラフジ	ツヅラフジ					R
186		メギ	イカリソウ					En-B
187		キンポウゲ	イチリンソウ					En-B
188			アズマイチゲ				NT	En-A
189			ボタンヅル					V-B
190			クサボタン					En-B
191			シロバナハンショウヅル					En-B
192			オキナグサ			NT	EN	Ex-A
193			ウマノアシガタ					V-B
194	ヤマモガシ	アワブキ	アワブキ					V-B
195	ユキノシタ	ボタン	ヤマシャクヤク			NT		
196		マンサク	トサミズキ			NT		
197		ユズリハ	ヒメユズリハ					En-A
198		ユキノシタ	アカショウマ					V-B
199			イワボタン					Ex-A
200		ベンケイソウ	メノマンネングサ				EN	
201		タコノアシ	タコノアシ			NT		V-B
202		アリノトウグサ	アリノトウグサ					En-A
203	ブドウ	ブドウ	サンカクヅル					En-B
204	マメ	マメ	クサネム					En-A
205			ホドイモ					V-B
206			レンリソウ				EN	Ex-A

表 3.11(5) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
207	マメ	マメ	イヌハギ			NT	VU	(Ex-A)
208			マキエハギ					V-B
209			タンキリマメ					En-A
210			オオバクサフジ					Ex-A
211	バラ	グミ	アキグミ					V-B
212		クロウメモドキ	クロツバラ				CR	En-A
213		イラクサ	ナガバヤブマオ					En-A
214			アカソ					R
215			ヤナギイチゴ					R
216			トキホコリ			NT	VU	
217			ムカゴイラクサ					V-B
218			カテンソウ					V-B
219			イラクサ					V-B
220		バラ	ヤブザクラ			EN	EN	En-A
221			ヒロハノカワラサイコ			VU	VU	En-A
222			フユイチゴ					V-B
223			クマイチゴ					En-A
224	ブナ	カバノキ	ハシバミ					En-A
225			ツノハシバミ					En-A
226	キントラノオ	トウダイグサ	シラキ					En-A
227		ミゾハコベ	ミゾハコベ					V-B
228		ヤナギ	ヤマナラシ					V-B
229			マルバヤナギ					V-B
230			コゴメヤナギ					En-A
231			オオキツネヤナギ				EN	V-B
232		スミレ	ナガバノスミレサイシン					V-A
233			ヒカゲスミレ				NT	Ex-A
234		オトギリソウ	トモエソウ					En-B
235			ミズオトギリ				EN	Ex-A
236	フウロソウ	フウロソウ	タチフウロ				EN	En-A
237	フトモモ	ミソハギ	ミズマツバ			NT	NT	En-B
238			ミズキカシグサ			NT	EX	Ex-A
239		アカバナ	オオアカバナ			VU	CR	
240			ウスゲチョウジタデ			NT		
241	ムクロジ	ウルシ	ヤマウルシ					En-B
242		ムクロジ	ミツデカエデ					R
243			ウリカエデ					Ex-A
244			カジカエデ					En-A
245			オニイタヤ					En-A
246			ウリハダカエデ					Ex-A
247		ミカン	マツカゼソウ					En-B
248			フユザンショウ					En-A
249	アブラナ	アブラナ	コンロンソウ				EN	(Ex-A)
250			マルバコンロンソウ					En-A
251			イヌナズナ					Ex-A
252	ビャクダン	オオバヤドリギ	マツグミ				NT	
253	ナデシコ	タデ	ナガバノウナギツカミ			NT	EX	Ex-A
254			シロバナサクラタデ					V-B
255			シンミズヒキ					V-B
256			サクラタデ					V-B
257			コギシギシ			NT		R
258		ナデシコ	カワラナデシコ					En-B
259			ワダソウ				EN	En-A
260			フシグロ					En-B

表 3.11(6) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
261	ナデシコ	ナデシコ	フシグロセンノウ				VU	Ex-A
262		ヒユ	ヤナギイノコヅチ				NT	Ex-A
263		ハマミズナ	ツルナ					V-B
264		ヤマゴボウ	ヤマゴボウ					En-A
265	ミズキ	ミズキ	ウリノキ					R
266			ヤマボウシ					(Ex-A)
267		アジサイ	ノリウツギ					Ex-A
268			ガクアジサイ					Ex-A
269			ガクウツギ					Ex-A
270			イワガラミ					V-B
271	ツツジ	ツリフネソウ	キツリフネ					V-B
272		サクラソウ	ノジトラノオ			VU	CR	En-A
273			ヌマトラノオ				VU	V-B
274			クサレダマ				VU	En-B
275		ツバキ	ナツツバキ				EN	
276		ハイノキ	サワフタギ					V-B
277		マタタビ	サルナシ					V-A
278		リョウブ	リョウブ					En-A
279		ツツジ	ウメガサソウ					Ex-A
280			ネジキ					En-A
281			ギンリョウソウモドキ					V-B
282			ギンリョウソウ					V-B
283			アセビ					Ex-A
284			イチヤクソウ					V-B
285			サツキ				EN	
286			ヤマツツジ					V-B
287			ナツハゼ				NT	Ex-A
288	リンドウ	アカネ	キヌタソウ					V-A
289			ヤブムグラ			VU	VU	V-B
290			ホソバノヨツバムグラ				VU	Ex-A
291			ハクチョウゲ			VU		
292		リンドウ	リンドウ					V-B
293			コケリンドウ				VU	En-B
294			センブリ					En-B
295		キョウチクトウ	スズサイコ			NT	VU	En-A
296	ナス	ヒルガオ	ハマヒルガオ					En-A
297			ハマネナシカズラ			EN		
298			ネナシカズラ					En-B
299		ナス	イガホオズキ					En-A
300	ムラサキ	ムラサキ	ヤマルリソウ					En-B
301			ルリソウ				CR	En-B
302	シソ	オオバコ	ミズハコベ					V-B
303			サワトウガラシ				VU	Ex-A
304			アブノメ					En-B
305			シソクサ				VU	En-A
306			キクモ				NT	En-B
307			ヒシモドキ			EN		
308			ヒメトラノオ				CR	Ex-A
309			カワヂシャ			NT		
310		ゴマノハグサ	フジウツギ					Ex-A
311			ゴマノハグサ			NT	CR	Ex-A
312			オオヒナノウスツボ					En-A
313		アゼナ	エダウチスズメノトウ ガラシ					En-B
314		シソ	カイジンドウ			VU	EX	Ex-A

表 3.11(7) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
315	シソ	シソ	ジュウニヒトエ					V-B
316			ツルカコソウ			VU	CR	Ex-A
317			ルリハッカ			CR		
318			ヤブムラサキ					V-B
319			クルマバナ					Ex-A
320			テンニンソウ					En-A
321			フトボナギナタコウ ジュ					Ex-A
322			メハジキ					V-B
323			キセワタ			VU	CR	Ex-A
324			コシロネ					En-B
325			ヒメシロネ					En-B
326			キバナアキギリ					En-A
327			ミゾコウジュ			NT		V-B
328			ヒメナミキ				VU	Ex-A
329		ハエドクソウ	ミゾホオズキ					En-B
330		ハマウツボ	シオガマギク				VU	Ex-A
331			ヒキヨモギ				VU	En-A
332		クマツヅラ	クマツヅラ					V-B
333	モチノキ	モチノキ	ウメモドキ					En-A
334	キク	キキョウ	ソバナ					En-A
335			サワギキョウ				EN	Ex-A
336			タニギキョウ					En-A
337			キキョウ			NT	EN	Ex-A
338		ミツガシワ	アサザ			NT	EX	
339		キク	ノコギリソウ				EN	Ex-A
340			ノブキ					Ex-A
341			オクモミジハグマ					En-A
342			カワラハハコ				VU	
343			イヌヨモギ					En-A
344			タテヤマギク			NT		Ex-A
345			ヒメシオン				EN	Ex-A
346			サワシロギク				EN	Ex-A
347			タウコギ					En-B
348			ヒレアザミ				VU	
349			コヤブタバコ					V-B
350			ヒメガंकビソウ					R
351			イソギク					Ex-A
352			アズマヤマアザミ					R
353			タカアザミ				EN	En-A
354			フジバカマ			NT	EX	Ex-A
355			サワヒヨドリ				EN	V-B
356			オグルマ				NT	En-B
357			カセンソウ				VU	En-A
358			ノニガナ				NT	Ex-A
359			ヤマニガナ					V-B
360			センボンヤリ					V-B
361			モミジガサ					V-B
362			コウモリソウ				VU	Ex-A
363			アキノハハコグサ			EN	CR	En-A
364			ミヤコアザミ				VU	En-A
365			タカオヒゴタイ				VU	Ex-A
366			キクアザミ				EN	Ex-A
367			タムラソウ					En-B
368			ハチジョウナ				VU	(Ex-A)

表 3.11(8) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
369	キク	キク	ハバヤマボクチ				EN	En-A
370			オカオグルマ				EN	Ex-A
371			オナモミ			VU	EN	
372	セリ	トベラ	トベラ					(Ex-A)
373		セリ	アシタバ					(Ex-A)
374			ホタルサイコ				CR	Ex-A
375			セントウソウ					V-B
376			セリモドキ				CR	Ex-A
377			ムカゴニンジン				CR	Ex-A
378	マツムシソウ	ガマズミ	レンプクソウ					(Ex-A)
379		スイカズラ	オミナエシ					En-B
380			マツムシソウ				VU	Ex-A
計	42 目	105 科	380 種	0 種	0 種	55 種	139 種	332 種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠し、記載がない種については Ylist (http://ylist.info/ylist_simple_search.html) を参考にしました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注2：選定基準は表 3.10 (p. 3-28～3-30 参照) に示すとおりです。

イ．重要な群落等

植物の重要な群落等としては、前掲表 3.10 (p. 3-28～3-30 参照) に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から、天然記念物に指定されている樹木並びに重要な植物群落を選定し、それぞれ、表 3.12 及び図 3.14 に示しました。

なお、前掲表 3.10 (p. 3-28～3-30 参照) に示す「⑤「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月) に記載された植物群落(群落複合)」、「⑦「第 2 回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁 昭和 56 年度)」、「第 3 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁 昭和 63 年度)、「第 5 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁 平成 12 年 3 月) に掲載された特定植物群落」及び「⑧「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan 平成 8 年 4 月) に掲載の植物群落」については、調査区域内では確認されませんでした。

調査区域には、天然記念物に指定されている樹木は確認されませんでした。

重要な群落として、植生自然度 10 及び 9 に該当する植生についても抽出しました。1/2.5 万植生図の統一凡例に対応する植生自然度は表 3.12 のとおりです。

調査区域には、植生自然度 10 に該当する植生はなく、植生自然度 9 に該当する植生として、シラカシ群集が確認されています。

対象事業実施区域内には、植物の重要な群落等は確認されませんでした。

表 3.12 重要な植物群落

選定基準		植生区分	1/2.5 万植生図 統一凡例
⑨	植生自然度 9 の自然林	ヤブツバキクラス域自然植生	シラカシ群集

注 1：選定基準は表 3.10 (p. 3-28～3-30 参照) に示すとおりです。

資料：「第 6 回～第 7 回自然環境保全基礎調査」(環境省 自然環境局 生物多様性センターホームページ 令和 7 年 6 月閲覧)

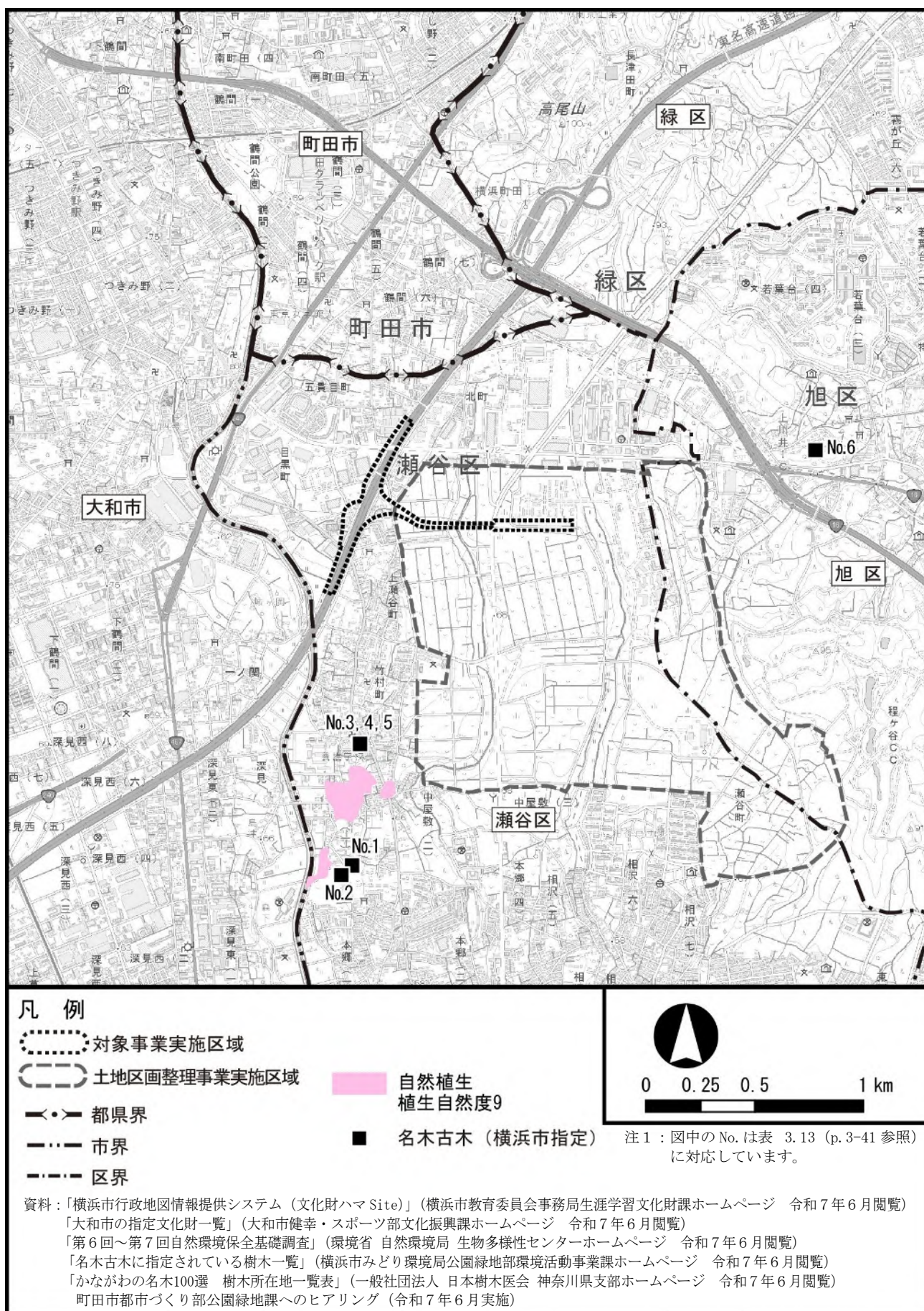


図 3.14 重要な植物群落の分布位置図、巨樹・巨木林及び名木古木等分布図

ウ．巨樹・巨木林等

調査区域における巨樹・巨木林及び名木古木の状況は表 3.13 に、分布図は図 3.14 に示すとおりです。

調査区域には、「第6回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧）により選定された「巨樹・巨木林」及び、一般社団法人 日本樹木医会 神奈川県支部により選定された「名木」は確認されませんでした。横浜市の名木古木保存事業における「名木古木」（情報公開されている樹木に限る。）が6件指定されています。

表 3.13 巨樹・巨木林及び名木古木等

【名木古木（横浜市指定）】

行政区分	No.	所在地	樹種	樹齢 (年)
瀬谷区	1	中屋敷一丁目6-2	ケヤキ	234
	2	中屋敷一丁目3-2	ケヤキ	230
	3	竹村町1-14	イチョウ	150
	4	竹村町1-14	タブノキ	300
	5	竹村町1-14	シダレザクラ	70
旭区	6	上川井町 846	ケヤキ	340

注1：表中のNo. は図 3.14（p. 3-40参照）に対応しています。

注2：巨樹・巨木林については、「第6回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧）に記録のあるものとしました。

注3：町田市では、「町田市保護樹木」が指定されていますが、調査区域内には存在していません。

資料：「第6回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧）
「かながわの名木100選 樹木所在地一覧表」

（一般社団法人 日本樹木医会 神奈川県支部ホームページ 令和7年6月閲覧）

「名木古木に指定されている樹木一覧」

（横浜市みどり環境局公園緑地部環境活動事業課ホームページ 令和7年6月閲覧）

町田市都市づくり部公園緑地課へのヒアリング（令和7年6月実施）

(2) 動物の生息状況

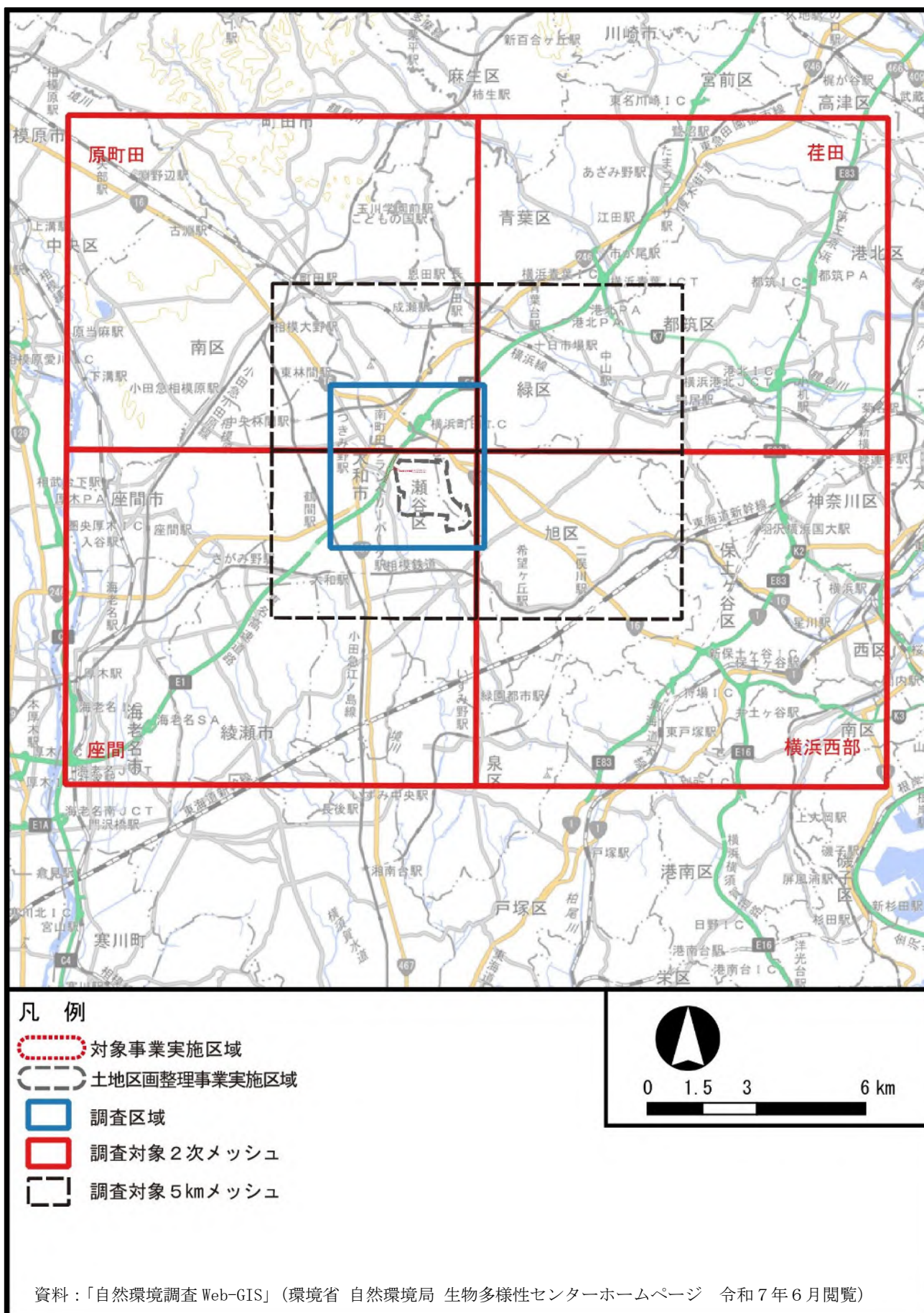
動物の生息状況は、調査区域及びその周辺を対象に、文献その他の資料により整理しました。
文献その他の資料による調査範囲は、表 3.14 及び図 3.15 のとおりです。

表 3.14 文献その他の資料による調査範囲（動物）

文献その他の資料	調査範囲
「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」 (神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月)	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成 4 年 3 月)	調査区域が含まれる 5 km メッシュで確認された種を対象としました。
「かながわの鳥図鑑」(神奈川県 平成 4 年 3 月)	横浜市瀬谷区、旭区、緑区、大和市で確認された種を対象としました。
「神奈川県内河川の魚類」 (神奈川県環境科学センター 平成 26 年 3 月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「神奈川県内河川の底生動物Ⅱ」 (神奈川県環境科学センター 平成 26 年 3 月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「横浜の川と海の生物（第 16 報・河川編）修正版」 (横浜市環境科学研究所 令和 6 年 3 月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「大和市の脊椎動物」 (大和市教育委員会 平成 2 年 3 月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「大和市の昆虫」(大和市教育委員会 平成 3 年 3 月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「大和市史 8（上）別編自然」 (大和市 平成 8 年 9 月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和 5 年 3 月)	調査区域の町田市が含まれるメッシュを対象としました。
「1993 年（平成 5 年）町田の野鳥」 (町田野鳥の会 平成 6 年 10 月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「1998 年度（平成 10 年度）町田の野鳥」 (町田野鳥の会 平成 12 年 2 月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「2003 年度（平成 15 年度）町田の野鳥 3」 (町田野鳥の会 平成 17 年 3 月)	調査区域及びその周辺で確認された種を対象としました。
「横浜のホタル生息地（1983 年度版）」 (横浜市公害研究所 昭和 59 年 3 月)	調査区域及びその周辺の調査地点で確認された種を対象としました。
「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー（第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書）」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和 7 年 6 月閲覧)	調査区域が含まれる 2 次メッシュとして、「座間」、「横浜西部」、「荏田」、「原町田」の 4 メッシュで確認された種を対象としました。

なお、上記以外に「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省大臣官房環境影響評価課ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）により、調査区域及びその周辺における以下の情報を収集しました。

コウモリ洞分布、コウモリ生息情報、イヌワシ・クマタカ生息分布、オオワシ・オジロワシ生息分布、渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地、鳥類の渡りのルート、重要種（イヌワシ、チュウヒ、サンカノゴイ、オオヨシゴイ、オジロワシ、クマタカ、オオワシ、タンチョウ、コウノトリ）の分布状況



① 動物相の概要

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、調査区域及びその周辺の動物相の概要を表 3.15 のとおり整理しました。哺乳類 14 種、鳥類 150 種、爬虫類 12 種、両生類 11 種、昆虫類等 891 種、魚類 48 種、陸産貝類 32 種及び底生動物 88 種が確認されています。

表 3.15(1) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
哺乳類	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成 4 年 3 月)	2	アズマモグラ、アブラコウモリ、ノウサギ、クリハラリス、アカネズミ、ドブネズミ、タヌキ、キツネ、ノイヌ(オオカミ)、テン(ホンドテン)、ニホンイタチ、アナグマ、ハクビシン、ノネコ (14 種)
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成 2 年 3 月)	4	
	「大和市史 8(上) 別編自然」(大和市 平成 8 年 9 月)	1	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和 7 年 6 月閲覧)	11	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和 5 年 3 月)	3	
鳥類	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月)	2	キジ、カルガモ、キジバト、コサギ、コチドリ、キアシシギ、トビ、アオバズク、カワセミ、コゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等 (150 種)
	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成 4 年 3 月)	55	
	「かながわの鳥図鑑」(神奈川県 平成 4 年 3 月)	88	
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成 2 年 3 月)	55	
	「大和市史 8(上) 別編自然」(大和市 平成 8 年 9 月)	23	
	「1993 年(平成 5 年) 町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成 6 年 10 月)	85	
	「1998 年度(平成 10 年度) 町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成 12 年 2 月)	77	
	「2003 年度(平成 15 年度) 町田の野鳥 3」(町田野鳥の会 平成 17 年 3 月)	38	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和 7 年 6 月閲覧)	127	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和 5 年 3 月)	21	

表 3.15(2) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認 種数	主な確認種
爬虫類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	8	クサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシ (12種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧)	8	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和5年3月)	2	
両生類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	7	アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、アカガエル属、トウキョウダルマガエル、ウシガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル (11種)
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧)	9	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和5年3月)	0	
昆虫類等	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)	7	ジグモ、オナガグモ、クロケシグモ、ジョロウグモ、アシナグモ、ウヅキコモリグモ、コクサグモ、ハナグモ、アリグモ、アキアカネ、オオカマキリ、エンマコオロギ、オンブバッタ、アブラゼミ、マルカメムシ、アカイラガ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ本土亜種、ヒメアカタテハ、コシロシタバ、マイマイカブリ、コクワガタ、カナブン、ウバタマムシ、ナミテントウ、シロスジカミキリ、ヒメクロオトシブミ、オオスズメバチ等 (891種)
	「大和市の昆虫」(大和市教育委員会 平成3年3月)	659	
	「大和市史 8 (上) 別編自然」(大和市 平成8年9月)	80	
	「横浜のホタル生息地 (1983 年度版)」(横浜市公害研究所 昭和59年3月)	2	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧)	160	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和5年3月)	138	
魚類	「神奈川県内河川の魚類」(神奈川県環境科学センター 平成26年3月)	13	コイ(型不明)、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、ミナメダカ、オオヨシノボリ、クロダハゼ、トウヨシノボリ類等 (48種)
	「横浜の川と海の生物(第16報・河川編) 修正版」(横浜市環境科学研究所 令和6年3月)	13	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧)	43	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和5年3月)	3	
陸産貝類	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和7年6月閲覧)	32	サドヤマトガイ、ヒラマキミズマイマイ、ナミコギセル、オカチョウジガイ、ナメクジ、チャコウラナメクジ、ニッポンマイマイ、オナジマイマイ等 (32種)
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」(東京都 令和5年3月)	0	

表 3.15(3) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認 種数	主な確認種
底生動物	「神奈川県内河川の底生動物Ⅱ」 (神奈川県環境科学センター 平成 26 年 3 月)	65	アメリカツノウズムシ、マルタニシ、イトミミズ属、シマイシビル、ミズムシ(甲)、ヒラテテナガエビ、アメリカザリガニ、サホコカゲロウ、ハグロトンボ、コオニヤンマ、アメンボ、コガタシマトビケラ、セスジユスリカ等 (88 種)
	「横浜の川と海の生物(第 16 報・河川編) 修正版」 (横浜市環境科学研究所 令和 6 年 3 月)	48	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和 7 年 6 月閲覧)	9	
	「東京都レッドデータブック 2023 本土部」 (東京都 令和 5 年 3 月)	0	

② 動物の重要な種

動物の重要な種は、「① 動物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、表 3.16 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。

その結果、重要な種は表 3.17 のとおり、哺乳類 2 種、鳥類 68 種、爬虫類 5 種、両生類 8 種、昆虫類等 57 種、魚類 17 種、陸産貝類 5 種及び底生動物 6 種が確認されています。

「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省大臣官房環境影響評価課ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）によれば、図 3.16 に示すとおり、調査区域の北端（対象事業実施区域外）にコウモリ洞の分布やコウモリ生息情報がありました。図 3.17 に示すとおり、調査区域の北端（対象事業実施区域外）を含むメッシュにて、イヌワシの一時滞在の記録がありますが、生息確認や生息推定はなされていません。クマタカ、オオワシ、オジロワシの生息分布や渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地はありませんでした。図 3.18 及び図 3.19 に示すとおり、調査区域は、オオハクチョウ、コハクチョウ、ハクチョウ類、ガン類、マガン、亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ、ツル類、海ワシ類、アカハラダカ、サシバ、ノスリ、ハチクマ、その他猛禽類の渡りのルートになっていません。

図 3.20 に示すとおり、対象事業実施区域を含むメッシュは、オオタカの生息ランクとして「繁殖を確認」に該当します。

表 3.16(1) 動物の重要な種の選定基準

選定基準			文献その他の資料
①	「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月法律第 214 号）、 「神奈川県文化財保護条例」（昭和 30 年 4 月神奈川県条例第 13 号）、 「横浜市文化財保護条例」（昭和 62 年 12 月横浜市条例 53 号）、「大和市文化財保護条例」（昭和 38 年 10 月大和市条例第 25 号）	国特：特別天然記念物 天然：天然記念物 県天：神奈川県天然記念物 横浜天：横浜市天然記念物 大和天：大和市天然記念物	「国指定文化財等データベース」（文化庁ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）ほか各自治体ホームページ
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物等	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 2 月政令第 17 号）

表 3.16(2) 動物の重要な種の選定基準

選定基準			文献その他の資料
③	「環境省レッドリスト 2020」 (環境省 令和元年3月)の掲載種	<p>EX: 絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</p> <p>EW: 野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種</p> <p>CR+EN: 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの</p> <p>CR: 絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの</p> <p>EN: 絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p> <p>VU: 絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種</p> <p>NT: 準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種</p> <p>DD: 情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種</p> <p>LP: 絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの</p>	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(環境省自然環境局野生生物課 ホームページ 令和7年6月閲覧)
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」 (神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)	<p>EX: 絶滅・・・すでに絶滅したと考えられる種</p> <p>EW: 野生絶滅・・・飼育・栽培下でのみ存続している種</p> <p>CR+EN: 絶滅危惧 I 類・・・絶滅の危機に瀕している種</p> <p>CR: 絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種</p> <p>EN: 絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種</p> <p>VU: 絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種</p> <p>NT: 準絶滅危惧・・・現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種</p> <p>減少: 減少種・・・かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種。</p> <p>希少: 希少種・・・生息地が狭域であるなど生息環境が脆弱な種のうち、現在は個体数をとくに減少させていないが、生息地での環境悪化によっては絶滅が危惧される種。</p> <p>要注: 要注意種・・・前回、減少種または希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地または生息個体数が明らかに減少傾向にある種</p> <p>注目: 注目種・・・生息環境が特殊なもののうち、県内における衰退はめだたないが、環境悪化が生じた際には絶滅が危惧される種</p> <p>DD: 情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種</p> <p>不明: 不明種・・・過去に不確実な記録だけが残されている種</p> <p>LP: 絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い個体群</p>	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)

表 3.17(1) 文献その他の資料による動物の重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ネコ（食肉）	イヌ	キツネ				NT
2		イタチ	ニホンイタチ				NT
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種

注 1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和 6 年 10 月）に準拠しました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注 2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48 参照）に示すとおりです。

表 3.17(2) 文献その他の資料による動物の重要な種（鳥類 1）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	VU ^b
2			ヤマドリ				VU ^{ab}
3	カモ	カモ	アカツクシガモ			DD	
4			オシドリ			DD	希少 ^a 、減少 ^b
5			トモエガモ			VU	希少 ^b
6	ハト	ハト	アオバト				注目 ^{ab}
7	ペリカン	サギ	ヨシゴイ			NT	VU ^a
8			ミゾゴイ			VU	CR+EN ^a
9			ササゴイ				VU ^a
10			チュウサギ			NT	
11	ツル	クイナ	ヒクイナ			NT	CR+EN ^a
12	カッコウ	カッコウ	カッコウ				VU ^a
13	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	VU ^a
14	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				減少 ^a
15	チドリ	チドリ	タゲリ				VU ^b
16			ダイゼン				減少 ^b
17			イカルチドリ				NT ^a 、注目 ^b
18			コチドリ				注目 ^a
19		シギ	ヤマシギ				希少 ^b
20			タシギ				注目 ^b
21			クサシギ				NT ^b
22			キアシシギ				VU ^b
23			イソシギ				希少 ^a 、注目 ^b
24			ハマシギ			NT	VU ^b
25		タマンギ	タマンギ			VU	CR+EN ^a 、希少 ^b
26		カモメ	コアジサシ			VU	CR+EN ^a
27	タカ	タカ	ツミ				VU ^a 、希少 ^b
28			ハイタカ			NT	DD ^a 、希少 ^b
29			オオタカ			NT	VU ^a 、希少 ^b
30			サシバ			VU	CR+EN ^a
31			ノスリ				VU ^a 、希少 ^b
32	フクロウ	フクロウ	フクロウ				NT ^a
33			アオバズク				VU ^a

表 3.17(3) 文献その他の資料による動物の重要な種（鳥類2）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
34	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				VU ^a
35		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	CR+EN ^a
36	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	CR+EN ^a 、希少 ^b
37	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	VU ^a
38		カササギヒタキ	サンコウチョウ				VU ^a
39		モズ	チゴモズ			CR	CR+EN ^a
40			モズ				減少 ^a
41		キクイタダキ	キクイタダキ				希少 ^a
42		シジュウカラ	コガラ				VU ^a 、NT ^b
43		ヒバリ	ヒバリ				減少 ^a
44		ツバメ	ツバメ				減少 ^a
45			コシアカツバメ				減少 ^a
46		ウグイス	ヤブサメ				NT ^a
47		ムシクイ	メボソムシクイ				VU ^a
48			エゾムシクイ				NT ^a
49			センダイムシクイ				NT ^a
50		センニュウ	オオセッカ		国内	EN	
51		ヨシキリ	オオヨシキリ				VU ^a
52		セッカ	セッカ				減少 ^{ab}
53		カワガラス	カワガラス				減少 ^{ab}
54		ヒタキ	トラツグミ				減少 ^a
55			クロツグミ				VU ^a
56			アカハラ				減少 ^a
57			ルリビタキ				VU ^a
58			コサメビタキ				CR+EN ^a
59			キビタキ				減少 ^a
60			オオルリ				NT ^a
61		セキレイ	キセキレイ				減少 ^a
62			セグロセキレイ				減少 ^a
63			ビンズイ				VU ^a
64		アトリ	カワラヒワ				減少 ^a
65		ホオジロ	ホオアカ				CR+EN ^a
66			アオジ				VU ^a
67			クロジ				CR+EN ^a 、減少 ^b
68			オオジュリン				VU ^b
計	14 目	34 科	68 種	0 種	2 種	20 種	65 種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠しました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48 参照）に示すとおりです。

注3：④「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）において、鳥類は、繁殖期又は非繁殖期ごとにカテゴリーが設定されています。繁殖期及び非繁殖期の区分は以下のとおりです。

a：繁殖期、b：非繁殖期

表 3.17(4) 文献その他の資料による動物の重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	有隣	トカゲ	ヒガシニホントカゲ				要注
2		ナミヘビ	シマヘビ				要注
3			アオダイショウ				要注
4			ヤマカガシ				要注
5		クサリヘビ	ニホンマムシ				要注
計	1 目	3 科	5 種	0 種	0 種	0 種	5 種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠しました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48 参照）に示すとおりです。

表 3.17(5) 文献その他の資料による動物の重要な種（両生類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	有尾	イモリ	アカハライモリ			NT	CR+EN
2	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				要注
3		アカガエル	ナガレタゴガエル				希少
4			ニホンアカガエル				VU
5			トウキョウダルマガエル			NT	VU
6			ツチガエル				要注
7		アオガエル	シュレーゲルアオガエル				要注
8			モリアオガエル				要注
計	2 目	4 科	8 種	0 種	0 種	2 種	8 種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠しました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48 参照）に示すとおりです。

表 3.17(6) 文献その他の資料による動物の重要な種（昆虫類等 1）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	オツネントンボ				VU
2		イトトンボ	キイトトンボ				EN
3			ベニイトトンボ			NT	CR
4			モートンイトトンボ			NT	EN
5			クロイトトンボ				要注
6			セスジイトトンボ				要注
7		モノサシトンボ	モノサシトンボ				NT
8		カワトンボ	ハグロトンボ				要注
9			ニホンカワトンボ				減少
10		ヤンマ	カトリヤンマ				NT
11			サラサヤンマ				EN
12		サナエトンボ	ヤマサナエ				要注
13			キヒロサナエ			NT	CR
14			コサナエ				EN
15		エゾトンボ	コヤマトンボ				NT
16			タカネトンボ				要注
17		トンボ	コフキトンボ				要注
18			シオヤトンボ				要注
19			チョウトンボ				EN
20			ナツアカネ				要注
21			マユタテアカネ				要注
22			マイコアカネ				DD
23			ヒメアカネ				要注
24			ミヤマアカネ				NT
25			リスアカネ				要注
26	バッタ (直翅)	クツワムシ	クツワムシ				要注
27		キリギリス	ヒガシキリギリス				要注
28	カメムシ (半翅)	セミ	ハルゼミ				要注
29		アメンボ	オオアメンボ				NT
30		コオイムシ	コオイムシ			NT	EN
31			タガメ			VU	EX
32	チョウ (鱗翅)	ミノガ	オオミノガ				VU
33		セセリチョウ	アオバセセリ本土亜種				要注
34			ホソバセセリ				VU
35			ギンイチモンジセセリ			NT	NT
36			ミヤマチャバネセセリ				要注
37			オオチャバネセセリ				VU
38		シジミチョウ	ミドリシジミ				NT
39			クロシジミ			EN	EX
40			シルビアシジミ			EN	CR
41		タテハチョウ	スミナガシ本土亜種				要注
42			オオムラサキ			NT	NT
43		シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種			EN	EN
44		ヤガ	コシロシタバ			NT	

表 3.17(7) 文献その他の資料による動物の重要な種（昆虫類等2）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
45	コウチュウ (鞘翅)	ハンミョウ	ホソハンミョウ			VU	CR+EN
46		ゲンゴロウ	ゲンゴロウ			VU	EX
47		ガムシ	コガムシ			DD	NT
48			ガムシ			NT	CR
49		クワガタムシ	ミヤマクワガタ				要注
50		タマムシ	ウバタマムシ				NT
51		コメツキムシ	ウバタマコメツキ				NT
52		ホタル	ヘイケボタル				NT
53		カミキリムシ	シロスジカミキリ				要注
54			ムネアカクロハナカミキリ				NT
55			ネジロカミキリ				NT
56			マルクビケマダラカミキリ				NT
57			トラフカミキリ				要注
計	5 目	27 科	57 種	0 種	0 種	15 種	56 種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠し、記載がない種については「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁 平成7年4月）等を参考にしました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48 参照）に示すとおりです。

表 3.17(8) 文献その他の資料による動物の重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類			VU	EN
2	コイ	コイ	コイ（型不明）				DD
3			ゲンゴロウブナ			(EN)	
4			キンブナ			VU	EN
5			ハス			(VU)	
6			アブラハヤ				NT
7			ウグイ				NT
8			ゼゼラ			(VU)	
9			カマツカ				NT
10			ニゴイ				VU
11			スゴモロコ			(VU)	
12		ドジョウ	ドジョウ			NT	
13			ヒガシシマドジョウ				NT
-			シマドジョウ種群				NT
14		フクドジョウ	ホトケドジョウ			EN	EN
15	ナマズ	ナマズ	ナマズ				注目
16	サケ	アユ	サクラマス（ヤマメ）			NT	CR
17	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU	CR
18	スズキ	カジカ	カジカ			NT	VU
19		ハゼ	ボウズハゼ				NT
20			オオヨシノボリ				NT
計	6 目	9 科	20 種	0 種	0 種	7 種	16 種

注1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和6年10月）に準拠、記載がない種については最新の図鑑等を参考にしました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48 参照）に示すとおりです。

注3：ゲンゴロウブナ、ハス、ゼゼラ、スゴモロコは移入種である可能性が高いことから、括弧を付けた表記とし、重要な種には計上しないこととしました。

表 3.17(9) 文献その他の資料による動物の重要な種（陸産貝類）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	新生腹足	ヤマタニシ	サドヤマトガイ			NT	
2		エゾマメタニシ	イナバマメタニシ			(VU)	
3	汎有肺	ヒラマキガイ	カワコザラガイ			CR	
4			ヒラマキミズマイマイ			DD	
5			ヒラマキガイモドキ			NT	
6		オカモノアラガイ	コウフオカモノアラガイ			VU	
計	2 目	4 科	6 種	0 種	0 種	5 種	0 種

注 1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和 6 年 10 月）及び「野生生物目録 無脊椎動物Ⅲ」（環境庁 平成 10 年）に準拠しました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注 2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48）に示すとおりです。

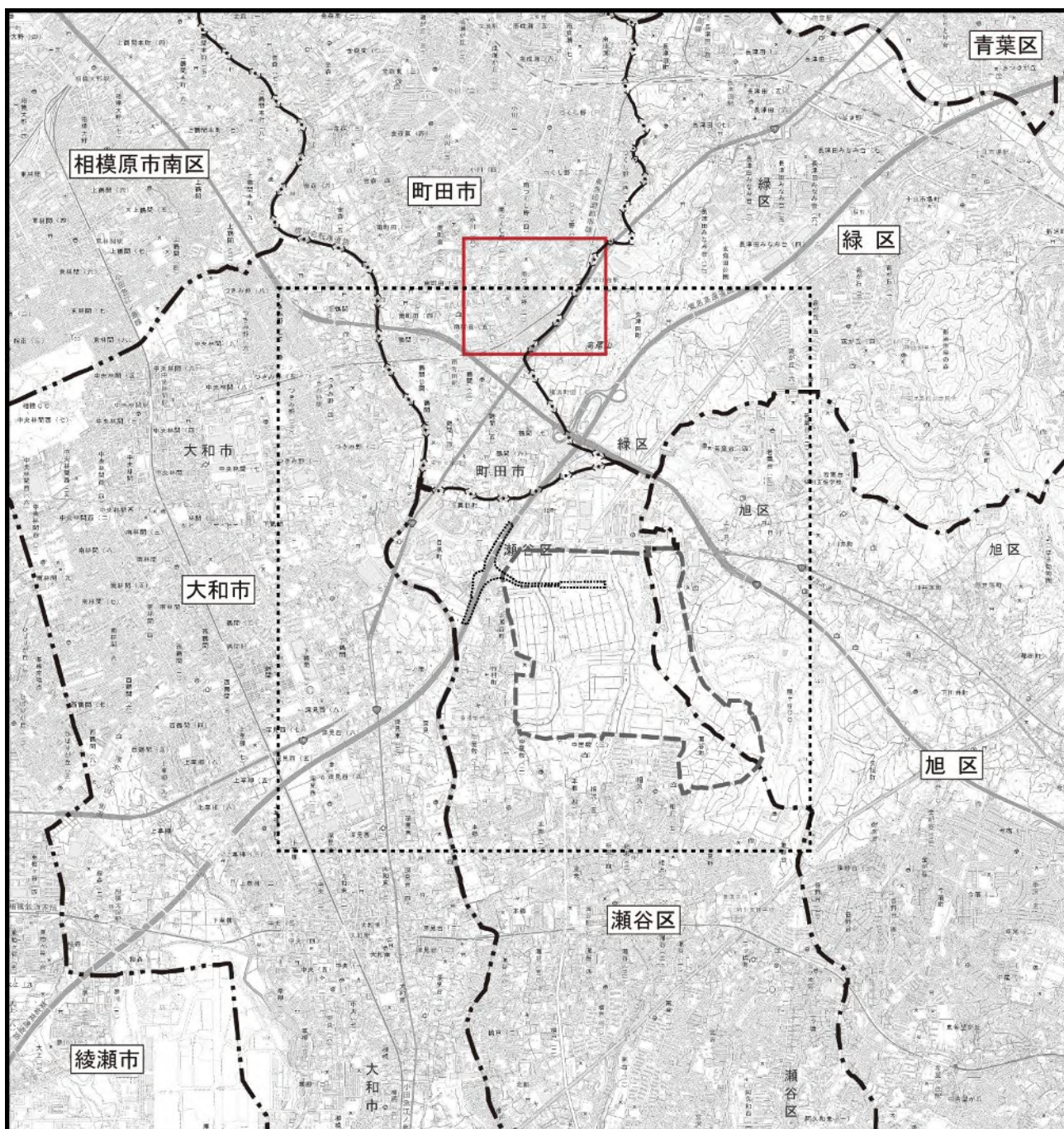
注 3：イナバマメタニシは移入種である可能性が高いことから、括弧を付けた表記とし、重要な種には計上しないこととしました。

表 3.17(10) 文献その他の資料による動物の重要な種（底生動物）

No.	目名	科名	種名	選定基準			
				①	②	③	④
1	新生腹足	タニシ	マルタニシ			VU	
2			オオタニシ			NT	
3	汎有肺	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD	
4	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ			VU	
5	トンボ（蜻蛉）	カワトンボ	ハグロトンボ				要注
6		ヤンマ	コシボソヤンマ				要注
計	4 目	5 科	6 種	0 種	0 種	4 種	2 種

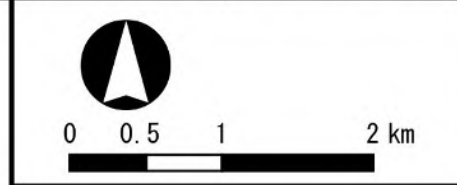
注 1：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 6 年度生物リスト」（国土交通省 河川環境データベース 令和 6 年 10 月）に準拠しました。そのため、選定基準に示す文献に記載がない和名となっている場合もあります。

注 2：選定基準は表 3.16（p. 3-47～3-48 参照）に示すとおりです。



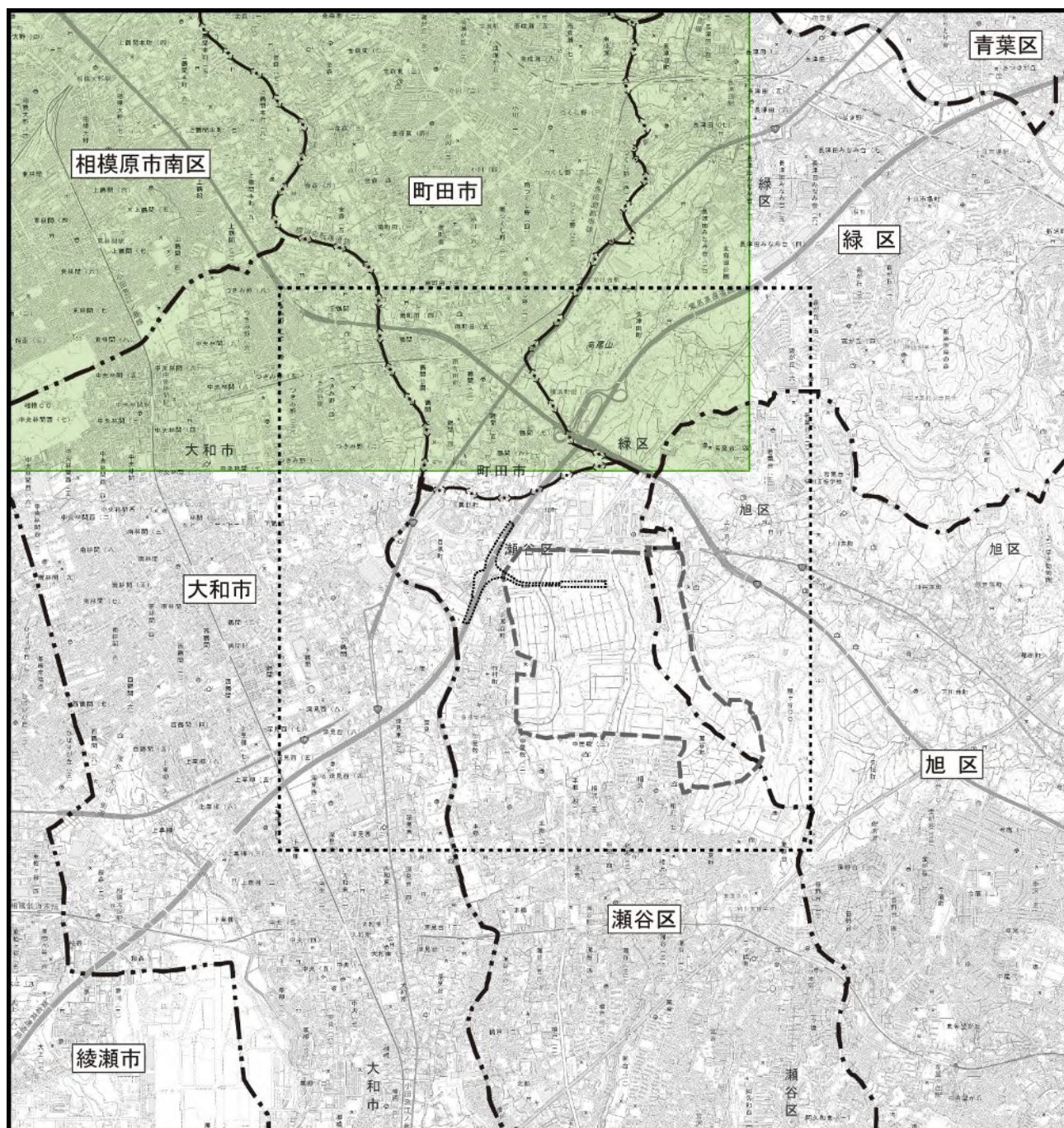
凡 例

- 対象事業実施区域 土地区画整理事業実施区域
- 都県界 市界 区界
- 調査区域
- コウモリ生息情報



資料：「環境アセスメントデータベース（EADAS）」（環境省大臣官房環境影響評価課ホームページ 令和7年6月閲覧）

図 3.16 コウモリ洞の分布やコウモリ生息情報



凡 例

対象事業実施区域 土地区画整理事業実施区域

都県界 市界 区界

調査区域

イヌワシ生息分布

(一時滞在)

注1：クマタカ、オオワシ、オジロワシの生息分布や渡りをするタカ類集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地は、図に示す範囲では確認されませんでした。

資料：「環境アセスメントデータベース (EADAS)」

(環境省大臣官房環境影響評価課ホームページ 令和7年6月閲覧)

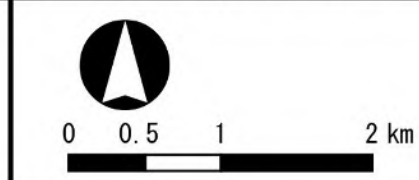


図 3.17 イヌワシ生息分布

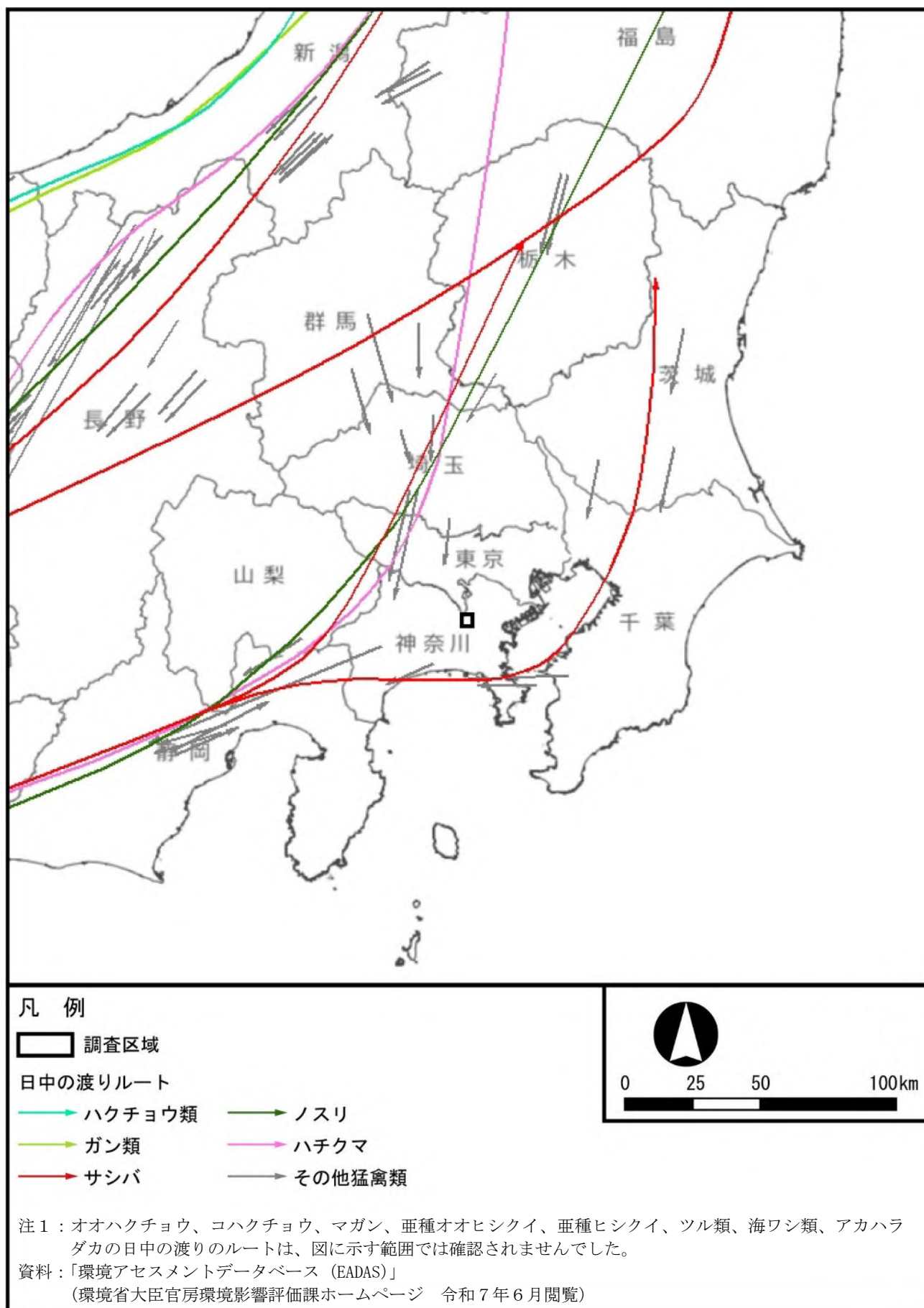


図 3.18 センシティブティマップにおける日中の渡りルート

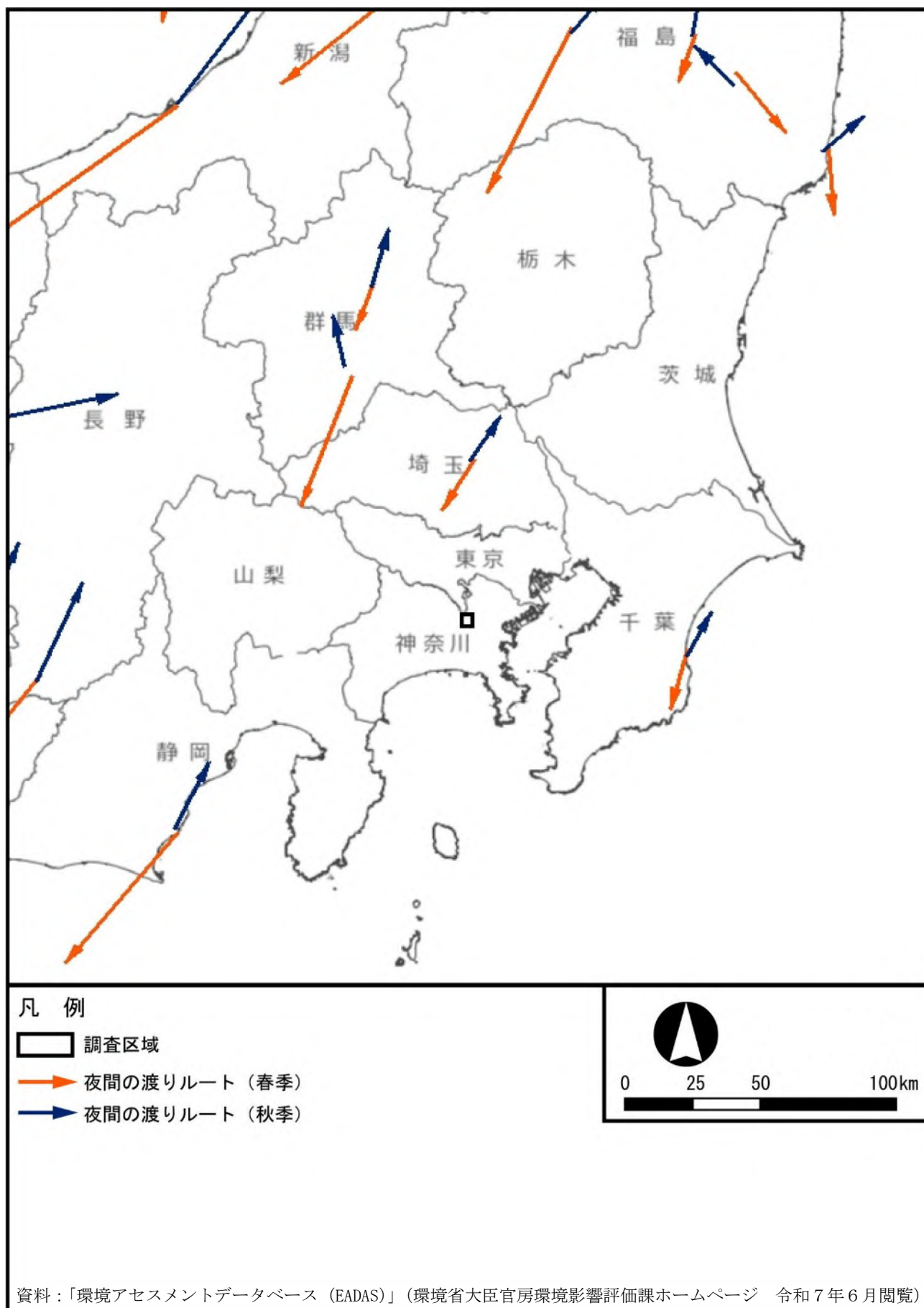


図 3.19 センシティブティマップにおける夜間の渡りルート

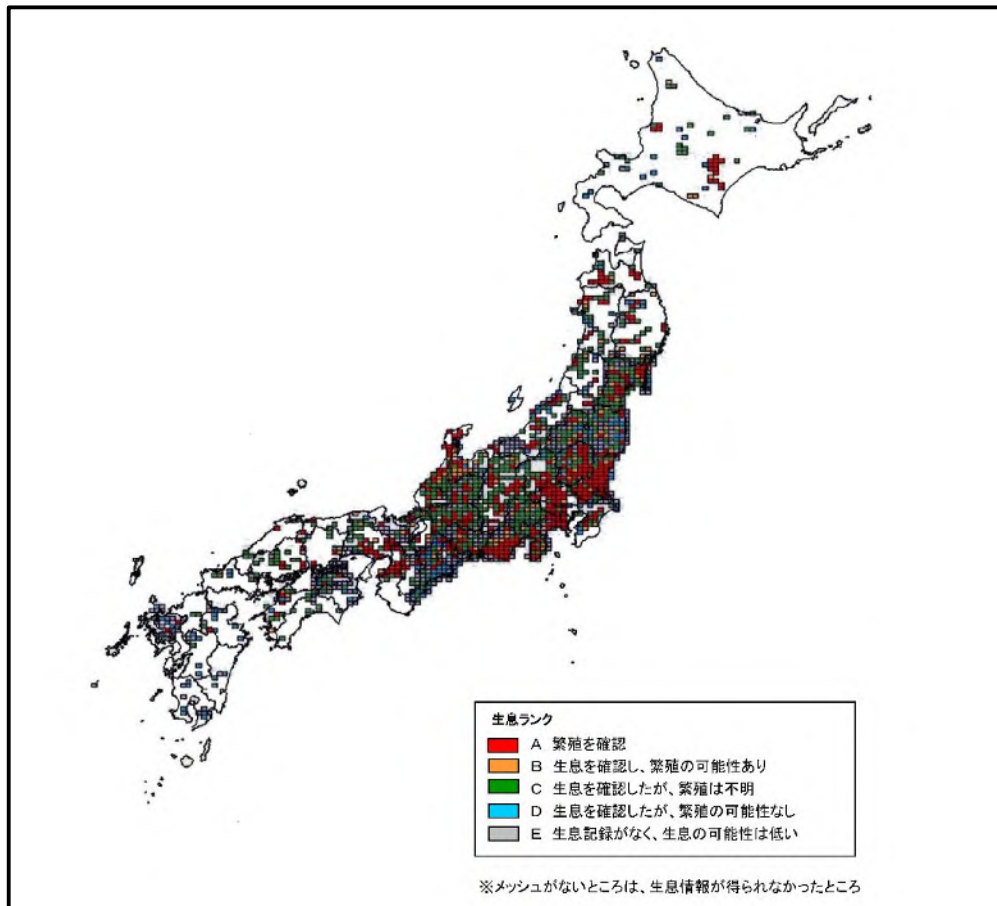


図 3.20(1) オオタカの生息分布

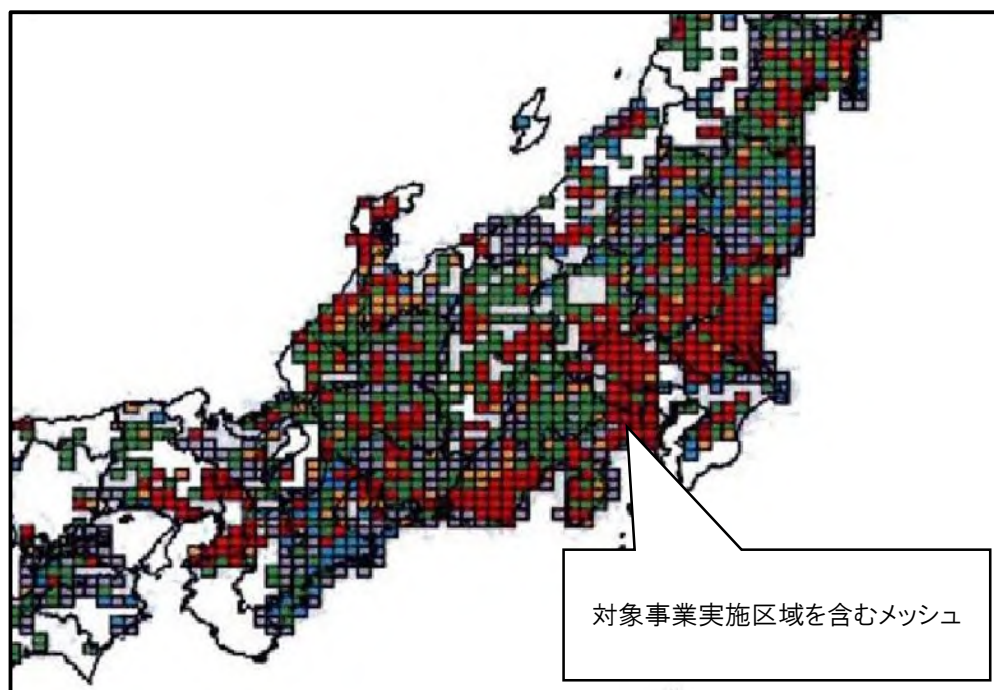


図 3.20(2) オオタカの生息分布（拡大図）

資料：「猛禽類保護の進め方」（改訂版）－特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて－
（環境省 平成 24 年 12 月）

③ 動物の注目すべき生息地

動物の注目すべき生息地については、表 3.18 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。調査区域における動物の注目すべき生息地を表 3.19 及び図 3.21 に示します。調査区域には、「ホタル生息確認地域」及び「トンボ池等主なエコアップスポット（点のビオトープ）」が存在しており、対象事業実施区域には「ホタル生息確認地域」が隣接しています。

なお、調査区域には、図 3.21 に示すとおり、環境省により「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されている地域が存在しており、対象事業実施区域の大部分が含まれています。対象事業実施区域内の「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されている地域は、土地区画整理事業実施区域内が大半であり、それらは、土地区画整理事業において改変され、農業振興地区、物流地区、観光・賑わい地区及び交通施設用地、防災・公園地区等に整備される計画です。しかし、新たに整備される防災・公園地区等では、当該地域の保全対象種の生育・生息地として、適した環境を創出・保全することが計画されています。土地区画整理事業実施区域において新たに整備される防災・公園地区等については、図 3.21 に示すとおりです。

表 3.18(1) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準			文献その他の資料
①	「文化財保護法」（昭和25年5月法律第214号）、「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年4月神奈川県条例第13号）、「横浜市文化財保護条例」（昭和62年12月横浜市条例53号）、「大和市文化財保護条例」（昭和38年10月大和市条例第25号）に基づく天然記念物	国特：特別天然記念物 天然：天然記念物 県天：神奈川県天然記念物 横浜天：横浜市天然記念物 大和天：大和市天然記念物	「国指定文化財等データベース」（文化庁ホームページ 令和7年6月閲覧）ほか各自治体ホームページ
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月法律第75号）及び「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律施行令」（平成5年2月政令第17号）に基づく生息地等保護区	生息：生息地等保護区	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成5年2月政令第17号）
③	「自然環境保全法」（昭和47年6月法律第85号）	原生：原生自然環境保全地域 自然：自然環境保全地域	「自然環境保全地域」（環境省自然環境局自然環境計画課ホームページ 令和7年6月閲覧）
④	「神奈川県自然環境等保全条例」（昭和47年10月神奈川県条例第52号）	県自然：神奈川県自然環境保全地域	「神奈川県自然環境保全地域の指定状況」（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課ホームページ 令和7年6月閲覧）

表 3.18(2) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準		文献その他の資料
⑤	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成4年9月条約第7号)	自遺：自然遺産 「日本の世界自然遺産」(環境省自然環境局ホームページ 令和7年6月閲覧)
⑥	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(ラムサール条約)(昭和55年9月条約第28号)	基準1：特定の生物地理区を代表するタイプの湿地、又は希少なタイプの湿地 基準2：絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準3：生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地 基準4：動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。又は悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 基準5：定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地 基準6：水鳥の1種又は1亜種の個体群で、個体数の1%以上を定期的に支えている湿地 基準7：固有な魚類の亜種、種、科の相当な割合を支えている湿地。また湿地というものの価値を代表するような、魚類の生活史の諸段階や、種間相互作用、個体群を支え、それによって世界の生物多様性に貢献するような湿地 基準8：魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外における漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地 基準9：湿地に依存する鳥類に分類されない動物の種及び亜種の個体群で、その個体群の1%を定期的に支えている湿地 「日本のラムサール条約湿地－豊かな自然・多様な湿地の保全と賢明な利用－」(環境省 令和4年)
⑦	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成14年7月法律第88号)	都道府県指定鳥獣保護区 国指定鳥獣保護区 特：特別保護地区 特指：特別保護指定区域 「令和6年度神奈川県鳥獣保護区等位置図」(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課ホームページ 令和7年6月閲覧)及び「令和6年度東京都鳥獣保護区等位置図」(東京都環境局自然環境部計画課ホームページ 令和7年6月閲覧)
⑧	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省 平成28年4月)	基準1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合 基準2：希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準3：多様な生物相を有している場合 基準4：特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合 基準5：生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、産卵場等)である場合 「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省自然環境局自然環境計画課ホームページ 令和7年6月閲覧)

表 3.18(3) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準			文献その他の資料
⑨	「重要野鳥生息地（IBA）」 （日本野鳥の会ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）	<p>A1：世界的に絶滅が危惧される種、又は全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地</p> <p>A2：生息地域限定種（Restricted-range species）が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地</p> <p>A3：ある 1 種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が 1 つのバイオーム※に含まれている場合で、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地</p> <p>※バイオーム：それぞれの環境に生きている生物全体</p> <p>A4 i：群れを作る水鳥の生物地理的個体群の 1 % 以上が定期的に生息するか、又は生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 ii：群れを作る海鳥又は陸鳥の世界の個体数の 1 % 以上が定期的に生息するか、又は生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 iii：1 種以上で 2 万羽以上の水鳥、又は 1 万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、又は生息すると考えられるサイト</p> <p>A4 iv：渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト</p>	「IMPORTANT BIRD AREAS IN JAPAN 翼が結ぶ重要生息地ネットワーク」（日本野鳥の会ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）
⑩	「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）」（コンサベーション・インターナショナル・ジャパンホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）	<p>危機性：IUCN のレッドリストの地域絶滅危惧種（CR、EN、VU）に分類された種が生息／生育する</p> <p>非代替性：a) 限られた範囲にのみ分布している種（RR）、b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種、c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所、d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地、e) バイオリージョンに限定される種群</p>	「Key Biodiversity Area 生物多様性の保全の鍵になる重要な地域」（コンサベーション・インターナショナル・ジャパンホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）
⑪	「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月改定）	<p>ホタル生息確認地域：1983 年に横浜市公害研究所（現環境科学研究所）で行ったホタル分布調査に基づき、その後生息が確認された地域</p> <p>トンボ池等主なエコアップスポット（点のビオトープ）：横浜市で把握している主なエコアップスポット（トンボ池や生き物サンクチュアリなど、生物の生息に配慮して整備したり改修した池・遊水地・せせらぎなどの小規模なビオトープ）</p>	「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月改定）

表 3.19 動物の注目すべき生息地

選定基準		区分
⑪	「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」	ホタル生息確認地域
		トンボ池等主なエコアップスポット（点のビオトープ）

資料：「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月改定）

対象事業実施区域及びその周辺の自然環境について、動物の注目すべき生息地を含む重要な自然環境のまとまりの場を抽出しました。抽出された重要な自然環境のまとまりの場は表 3.20 及び図 3.21 のとおりです。

表 3.20 重要な自然環境のまとまりの場

No.	重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
1	自然植生	植生自然度 9（シラカン群集）	環境省植生図におけるシラカン群集に該当する植生です。
2	特別緑地保全地区	追分特別緑地保全地区	「都市緑地法」（昭和 48 年 9 月法律第 72 号）第 12 条第 1 項の規定により指定された特別緑地保全地区の区域です。
3		上川井町大貫谷特別緑地保全地区	
4		上川井町堀谷特別緑地保全地区	
5		上川井町中田谷特別緑地保全地区	
6		上川井町露木谷特別緑地保全地区	
7		長津田町馬ノ背特別緑地保全地区	
8		長津田町長月特別緑地保全地区	
9	生物多様性保全上重要な里地里山	三保・新治、川井・矢指・上瀬谷	環境省によって定められた生物多様性保全上重要な里地里山であり、「基準 1：多様で優れた二次的自然環境を有する」、「基準 2：里地里山に特有で多様な野生動植物が生息・生育する」及び「基準 3：生態系ネットワークの形成に寄与する」に該当する地域です。
10	ホタル生息確認地域		1983 年に横浜市公害研究所（現環境科学研究所）で行ったホタル分布調査に基づき、その後生息が確認された地域です。
11	トンボ池等主なエコアップスポット（点のビオトープ）		「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月改定）において示されている横浜市内で把握している主なエコアップスポット（トンボ池や生き物サンクチュアリなど、生物の生息に配慮して整備したり改修した池・遊水地・せせらぎなどの小規模なビオトープ）です。
12	湧水	瀬谷市民の森 1（和泉川周辺の窪地）（瀬谷区瀬谷町）	「横浜の河川紹介（和泉川）」（横浜市ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）及び「横浜市内の湧水特性」（加藤良明、下村光一郎、飯塚貞男 平成 20 年 3 月）において示されている調査区域内の湧水の分布状況です。
13		瀬谷市民の森 2（和泉川周辺の窪地）（瀬谷区瀬谷町）	
14		－（旭区上川井町 2053 付近）	
15		－（旭区笹野台）	
16	緑の 10 大拠点	川井・矢指・上瀬谷地区	「横浜市水と緑の基本計画（平成 28 年 6 月改定）」（横浜市ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）において「緑の 10 大拠点」として位置づけられている、横浜市内を流れる河川の源・上流域、中流域の、まとまりのある樹林地や農地、湧水や水辺など多様な自然や里山景観が残されている、生き物の生育・生息環境としても重要である地域です。
17		三保・新治地区	

注 1：表中の No. は図 3.21 に対応しています。

資料：「都市緑化データベース」（国土交通省ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）

「特別緑地保全地区」指定一覧（令和 7 年 4 月 15 日現在）（横浜市みどり環境局公園緑地部公園緑地事業課ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）

「第 6 回～第 7 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）

「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省自然環境局自然環境計画課ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）

「エコロジカルネットワーク形成に係る環境特性図」（横浜市環境保全局環境影響審査課 平成 13 年 3 月改定）

「横浜の河川紹介（和泉川）」（横浜市下水道河川局河川部河川流域調整課ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）

「横浜市内の湧水特性」（加藤良明、下村光一郎、飯塚貞男 平成 20 年 3 月）

「横浜市水と緑の基本計画（平成 28 年 6 月改定）」（横浜市みどり環境局戦略企画部戦略企画課ホームページ 令和 7 年 6 月閲覧）

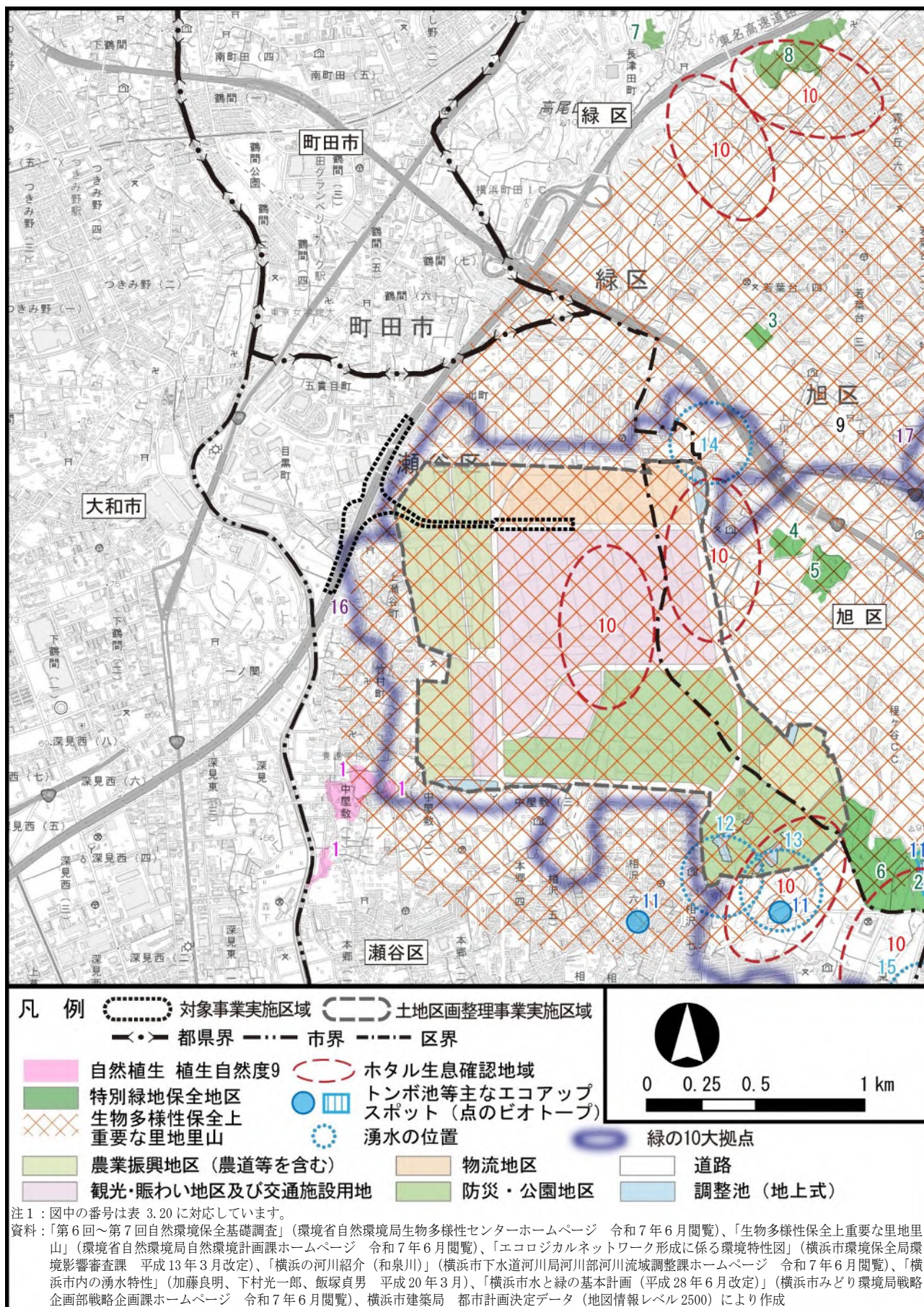
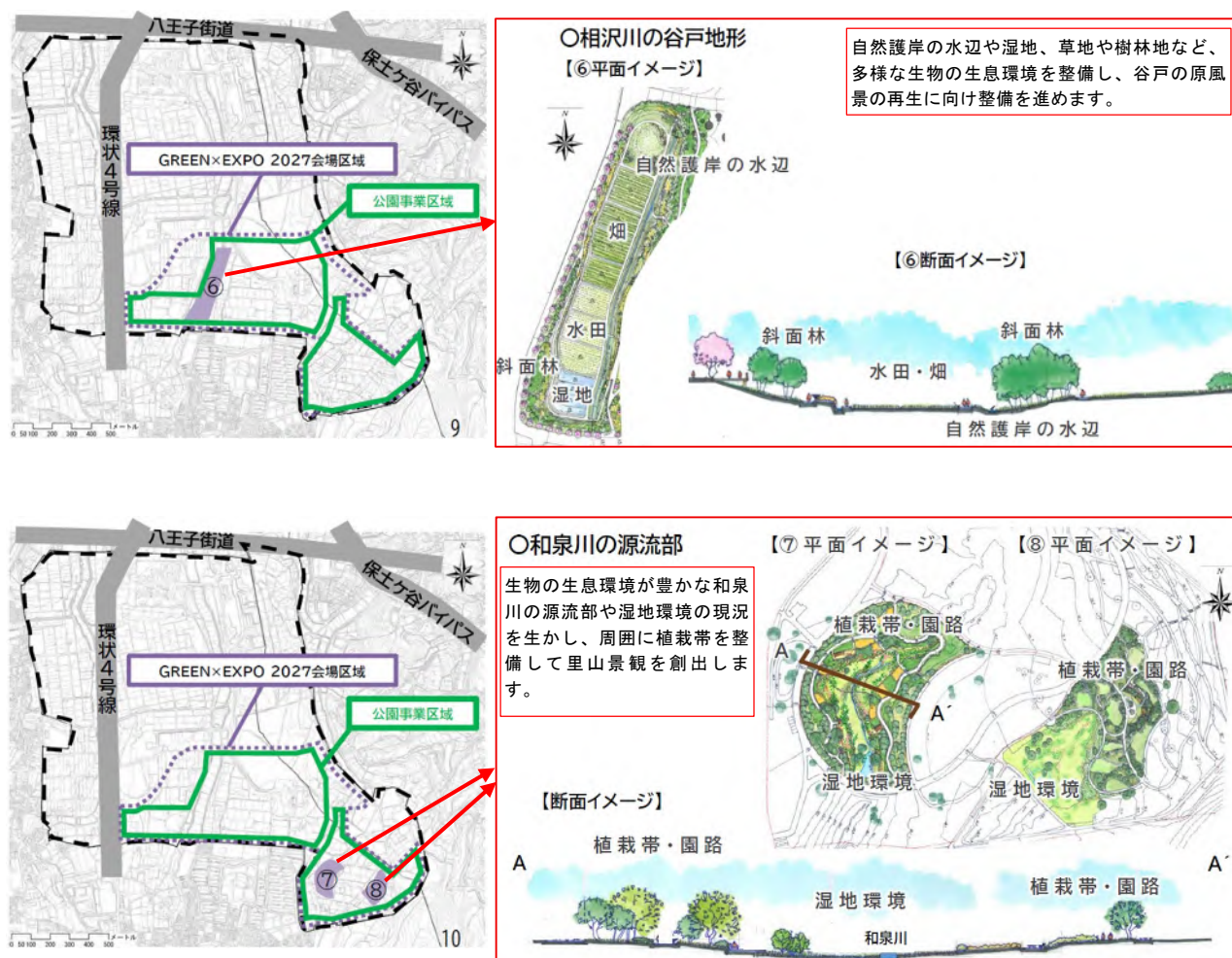


図 3.21 動物の注目すべき生息地及び重要な自然環境のまとまりの場



資料：「旧上瀬谷通信施設における基盤整備等の状況について」

(脱炭素・GREEN×EXPO推進・みどり環境・資源循環委員会 脱炭素・GREEN×EXPO推進局 令和6年9月)

図 3.22 土地区画整理事業において動植物の生息・生育環境が整備・創出される範囲

(3) 農地の状況

調査対象地域における自然的土地利用状況は、表 3.21 及び図 3.23 に示すとおりです。

対象事業実施区域が位置する瀬谷区には 270ha の農地が存在し、対象事業実施区域内及び周辺には、比較的大規模な農地が分布しています。大和市の農地は 200.0ha、町田市の農地は 493.7ha 存在しています。

本事業実施区域周辺の農地は土地区画整理事業により改変され、『旭区と瀬谷区それぞれに「農業振興地区」を配置することで、新たな都市農業モデルとなる拠点の形成を図ります。なお、農業振興地区には農道等を整備しますが、周辺の緑地との連続性に配慮し、農耕地周辺に生息する種にとって生息環境の代償となり得るような整備が行えるよう、今後、地権者と調整を図っていきます。』とされています。^{注1}

農地のうち、本事業の対象事業実施区域内は道路区域となる予定ですが、上記の考え方を踏襲し、周辺の緑地との連続性に配慮した整備が行えるよう、関係者との調整を図っていきます。

なお、対象事業実施区域周辺の現況は、土地区画整理事業の着手後の状態であり、工事中となります。

注1：「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価事後調査計画書（工事中その2）」（横浜市 令和6年2月）

表 3.21 (1) 自然的土地利用状況（横浜市）

項目	面積（ha）			
	横浜市 全域	瀬谷区	旭区	緑区
農地	2,897	270	252	318
山林	3,271	97	303	362
河川・水路・水面	517	12	27	27
荒地・海浜・法面等	887	44	79	79

注1： は、対象事業実施区域のある行政区分

資料：「横浜市土地利用のあらまし 令和元・2年度」

（横浜市建築局企画部都市計画課 令和5年4月）

表 3.21 (2) 自然的土地利用状況（大和市）

項目	面積（ha）
田	9.4
畑	188.3
耕作放棄地	2.3
農地小計	200.0
平坦地山林	46.5
傾斜地山林	38.8
河川、水面、水路	17.2
荒地、海浜、河川敷	23.3

注1：平成27年度の値

資料：「神奈川県都市整備統計年報 2024（令和6年度）」

（神奈川県県土整備局都市部都市計画課 令和7年3月）

表 3.21(3) 自然的土地利用状況（町田市）

項目	面積（ha）
農用地	493.7
水面・河川・水路	73.4
森林	1,277.5
原野	208.4

資料：「東京の土地利用（平成29年多摩・島しょ地）」（東京都都市整備局都市づくり政策部土地利用計画課 平成31年5月）

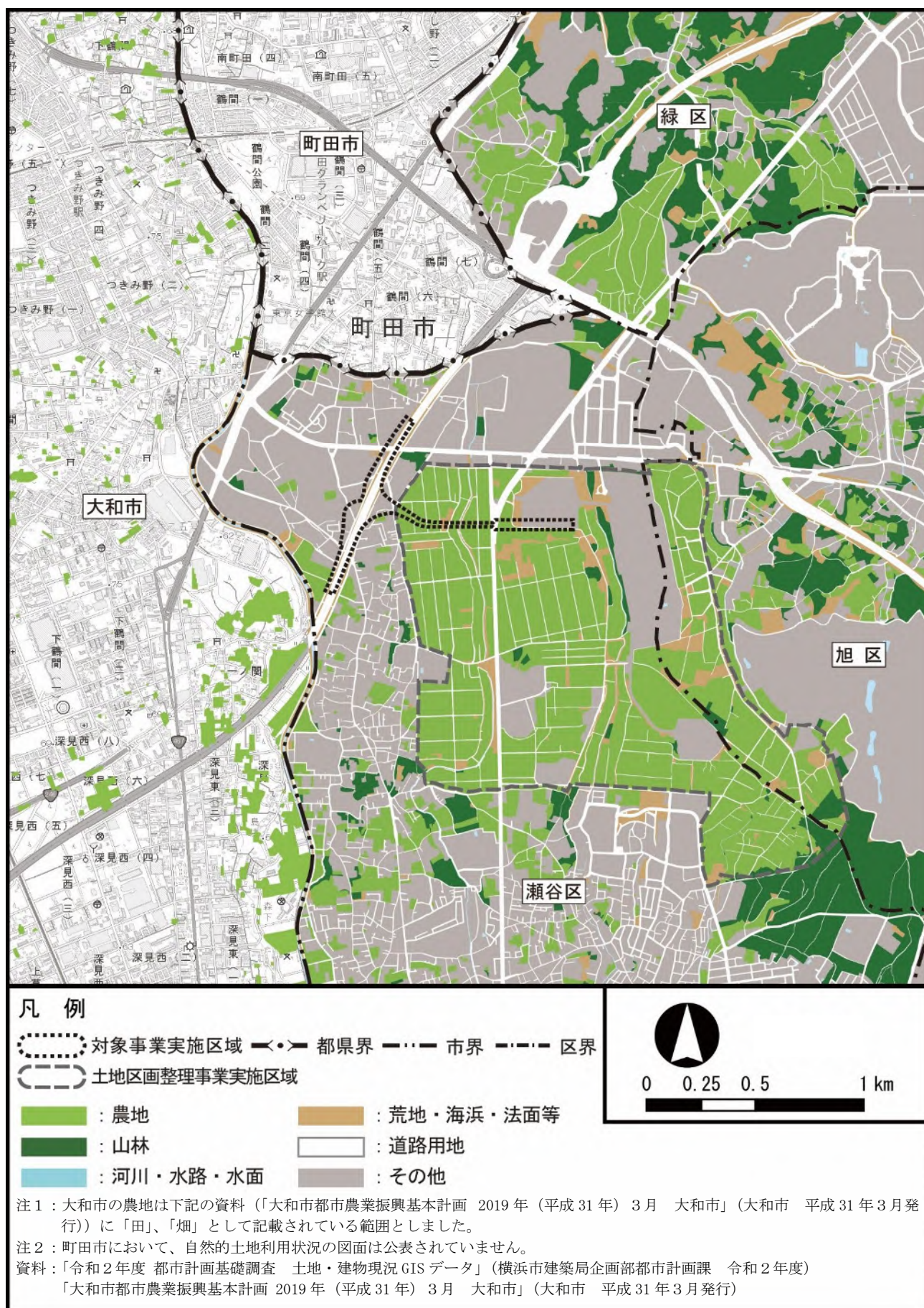


図 3.23 自然的土地利用状況